

令和4年 第118回(定例)新温泉町議会会議録(第2日)

令和4年9月2日(金曜日)

議事日程(第2号)

令和4年9月2日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

- (1) 1番 中村 茂君
- (2) 9番 重本 静男君
- (3) 2番 西村 龍平君
- (4) 3番 岡坂 遼太君
- (5) 7番 浜田 直子君

出席議員(16名)

1番 中村 茂君	2番 西村 龍平君
3番 岡坂 遼太君	4番 澤田 俊之君
5番 米田 雅代君	6番 森田 善幸君
7番 浜田 直子君	8番 河越 忠志君
9番 重本 静男君	10番 竹内 敬一郎君
11番 岩本 修作君	12番 池田 宜広君
13番 中井 勝君	14番 中井 次郎君
15番 小林 俊之君	16番 宮本 泰男君

欠席議員(なし)

欠員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 島木 正和君 書記 東 康次郎君

説明のため出席した者の職氏名

町長 西村 銀三君 副町長 西村 徹君
教育長 西村 松代君 温泉総合支所長 西澤 要君

牧場公園園長	小野量就君	総務課長	中井勇人君
企画課長	水田賢治君	税務課長	中村裕君
町民安全課長	小谷豊君	健康福祉課長	朝野繁君
商工観光課長	福井崇弘君	農林水産課長	原憲一君
建設課長	松井豊茂君	上下水道課長	井上陽一君
介護老人保健施設ささゆり事務長	山本幸治君	会計管理者	山本輝之君
こども教育課長	中島昌彦君	生涯教育課長	谷渕朝子君
調整担当	森田忠浩君	代表監査委員	島田信夫君

午前 9 時 0 0 分開議

○議長（宮本 泰男君） 皆さん、おはようございます。

第 118 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御参集を賜り、厚くお礼申し上げます。

本日は、初日に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては、格別な御精励を賜りまして、議事の円滑な運営に御協力を賜りますようお願いいたします。

町長挨拶。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の皆様、おはようございます。

定例会第 2 日目の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、昨日に引き続きまして 5 名の方より一般質問を賜っております。いずれも行政運営に係る重要な案件であり、誠意を持って答弁させていただきますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（宮本 泰男君） ただいまの出席議員は 16 名です。定足数に達しておりますので、第 118 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第 1 一般質問

○議長（宮本 泰男君） 日程第 1、一般質問に入ります。

初日に引き続き、受付順に質問を許可いたします。

初めに、1 番、中村茂君の質問を許可いたします。

1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） それでは、議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。今回は 3 点について大きな内容をいきたいと思います。

まず最初ですが、令和 4 年度から町総合計画後期基本計画がスタートしております。令和 2 年国勢調査の結果の発表前の策定でありました。各種施策については推測等によ

る傾向で方針決定がなされてきたと、そういうふうに認識しております。同調査結果は段階的に公表されておりました。今回確認させていただきたいと思います。私は発表内容を、全国データで発表してますからなかなか読み取りにくいという部分がありました。現在公表されている内容はどのような部分なのかということ、また、予想を超えるような数値の変化なりはあったのかどうかということを確認します。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。令和2年国勢調査の統計結果は11回に分けて公表がなされております。直近では8月31日、従業地、働くところですね、通学地による人口、就業状況等集計に関する集計と移動人口の就業状態等の集計、この2つが公表されました。あと、この12月、抽出詳細集計の公表を残すだけとなっております。

新温泉町総合計画後期基本計画では、国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口、平成30年度の推計ですが、これによる推計結果を記載をいたしております。令和2年の将来人口の見込み推計値より今回の結果は人口の実数値が低くなっており、人口減少が予想より少し進んでいるということが読み取れるようであります。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） ありがとうございます。随時11項目にわたって発表ということがあったんですが、従来から、発表ごとでもないんですが、ある程度やっぱり町に関わる分については、今までから資料提供をさせていただいたような気がいたします。そういう部分では、町の客観的なデータを見るということは大事ですから、議員に周知するような資料提供を随時お願いしておきたいと思います。

その中で、私が特に気になる数値が、Uターン等の状況なり特殊出生率、また未婚者の状況、通勤・通学者の状況なり、この辺りがとても僕は気になるところであります。そういう中で、平成27年に行った高校生アンケートの結果では、将来Uターンしたいと思う生徒の割合が38.7%、それから、その後、平成29年の調査では31%ということが、高校生、いずれ帰りたいと、そういう希望があったところであります。今回の調査結果で、そのU・J・Iターンの状況というのはどのように変化したのかということを確認したいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおり、この人口の移動、こういった資料はできるだけ議員と共有しながらやっていきたいと思っておりますので、この資料の配付のほうをさせていただきたいと思います。

まず、御質問の転入の状況であります。県内他市町から新温泉町に288名、それから県外から298名、国外から94名、合計で680人の転入がありました。二十歳から29歳の世代では111人、これは国外からの人数を除いております、111人。それから、高校生がUターン目的で転入してきたかまでをこの数字をもって推測することは大変難しいという状況があります。それから、合計特殊出生率は、現在、新温泉町は

一昨年の国勢調査では1.63となっておりまして、その5年前、平成27年に比べて、平成27年が1.43でありましたので、大きくアップしております。県下で平成27年の合計特殊出生率は29位だったんですけど、今回は5位ということになっております。以上のような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 私は私なりに分析してみました。総合計画の11ページ、年齢階層別人口移動の状況、これが私は、今までから5歳刻みがどう5年ごとに展開していくかと、そういう部分で、はっきりと高校生どうのこうのとは言えないんですけど、やっぱり出る若者、それから5年後に帰ってくるというような数値を見たときに、平成27年の調査から令和2年を比較しますと、15歳から34歳、5年間の比較でプラスに転じた年代は25から29歳で、プラスが21人というものであります。前回の平成22年から平成27年においては、この年代は127人あったわけですね。だから、それが現在の調査は21人に落ちてると。だから完全にUターンが大きく減少しているという現実があるようであります。この辺り、町長の所感を聞きたいと思いますが。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） Uターンの厳しい、なかなかUターンが少ないという現状が人口減少にも拍車をかけているというふうな状況があると考えております。このUターンの少ない原因はやはり働く場所の確保、これが一番大きいという具合に考えております。現在、Uターンの方々、Iターンの方々に対する様々な支援策を行っているわけですが、なかなか効果は出ていないというふうなことであります。

それから、毎年6月にこのUターン、Iターンの新規就職者の方々に、何ていいますか、商工会館に集まっただいて歓迎の意を込めて町の現状であるとか、講師の方に来ていただいて、取り組むべき心構えについてお話をさせていただいております。年々これも少なくなってきたということで、Uターンが増える、Iターンが増えるような、そういった施策の強化をやる必要があると考えておりますが、なかなか現状では厳しい状況があるというふうなことで、どうして力をつけていくか、さらなる検討をしていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 次に、答弁にありました特殊出生率のことで質問したいんですが、厚生労働省が8月30日に公表した部分で、22年、今年ですね、上半期の出生率は38万人、初めて40万人を下回って、過去最低と、そういうふうな発表がありました。新型コロナウイルスの影響による産み控えが少子化に拍車をかけた可能性がある、そのような見解を示しておりました。

本町の特殊出生率については今答弁がありました。本町は平成の時代からかけて、平成2年から平成17年までは但馬でトップの出生率でありました。それが平成22、27年の経過の中で1.43まで低下して、最下位になったところであります。この令和2年、

今答弁にありましたように、1.63まで回復しました。現在但馬では2位、1位が朝来でしたかね。ちなみに兵庫県は1.39、全国は1.33ですから、それを大きく上回った部分がありました。本当に平成20年のときは県下よりも低く、全国でも低いという大変ショッキングなデータだったと思います。町長、これを早く御承知でしたかね。挨拶とかのいろんな部分で聞いたことは全くなかったもんですから、僕もこれ見たときに、すごい回復しているなど、そういうように思いました。

この要因は何でしょうか、分析されていたら教えてください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 要因は、要するに分母、二十歳から39歳ですか、この子供を産み育てる世代の女性の人数、これが減ったことによって、分母が小さくなるとアップしますので、結果は。そういうのが原因かなという具合に考えておりました、決して1.63がいい傾向ではない、そう考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 私も同感であります。こうしてどんどんどん出生数が下がった中で、特殊出生率が上がっている。もうこれはまさしく分母が減ってきたと、だから、対象が減っていると、それが一番簡単に理解できる方法かなと。ぜひこういう年代がこの町に住めるような施策をどんどん打っていただきたいなど、そんな気がいたします。

続いて、通勤・通学者の状況であります。事前の調査で調べたところでは、鳥取県が612人、但馬内が716人、これは通勤・通学者の数であります。この辺りは前回の数値がないものですから、どのような変化があったのかということを知りたいと思います。あわせて、こうして麒麟のまちとすごい連携を強化しておりますので、その辺の効果なり、そんなことが事例的にあったことがありましたら紹介いただければと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、通勤、通学をされている方、新温泉町に住民票を残して県外の大学、専門学校等に通う学生の人数を含む数字、6,783名のうち、町内に勤務される方は5,175人であり、近隣市町、特に鳥取が一番多いわけですけど、鳥取市に471名、それから香美町に446名、豊岡市に223名、それから岩美町に130名、養父市が39名となっております。昼間の人口は1万2,746人、流入人口が819人、そのような現状になっております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 先ほど申しましたように、鳥取市というよりは、鳥取県に612名ということでありましたので、かなりの方が通勤、通学に出てるといった感じがいたします。

麒麟のまちの連携なり、そういうふうな効果というか、そういうものっていうのは何

か発表できるようなことってありましたら御発表いただきたいと思うんですが。麒麟のまち連携における動きの効果っていうものはどうでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員はこれまでから婚活ということを一般質問でも何度か伺っております。そういった意味で、麒麟のまちの連携、観光はもちろんなんですけど、婚活事業、何とか強力的に推進していきたい、そういう思いで、私も会議のたびごとに婚活の実績、婚活の推進を図っていただくように会議の場で発言をさせていただいておるといのが現状であります。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） ありがとうございます。

次の答弁に入っていたんですが、町の20歳以上、また50歳未満の未婚者、男女それぞれはどの程度この国勢調査結果ではっきりしたのでしょうかということ、それから、そのうちで20歳から39歳、40歳まで、この辺りの人数はどういうふうに変化しているかということを知りたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和2年度の女性の未婚率、全体では31%、これは二十歳から49歳の平均値であります。31%が未婚率となっております。一番未婚率の高いのは二十歳から24歳、94%、次が、25から29歳が59%、30から34歳が39%、そのような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 明快な御回答ではなかったんですが、私の調査の部分では、20歳から39歳、一番結婚に向かいやすい年代というか、そういうものの人数については、前回で男が729人が607人、女性が423人が332人に減っております。だから、未婚者が減っているという現実があります。それは喜ばしいことだというふうに私は思うわけであります。ただし、この20歳から39歳で未婚者の人数は減少しておりますが、5歳単位の区分では全ての年齢区分で未婚率が上昇しております。だから、結婚しない人が増えてると、そういうことは、総数では減ってるけど、個々には上がってる。だから、総数で落ちてるっていうのは人口減少がありますから。そういう中でこういう結果が出たのかなという気がいたします。

そういう中で、新たな対策が必要ではないかということ質問したんですが、今、麒麟のまち婚活サポートセンターなり、ひょうご出会いサポートセンターなりのお話を少しいただきました。ほかに、兵庫の部分は聞いておりませんので、やっぱりぜひそういう動きがあれば教えていただきたいと思います、今の現状の部分で。特にはありませんか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 婚活事業、従来どおり出会いの場をつくるということで、麒麟

のまちの連携の中でやらせていただいておりますというふうなことで、実際の成果についてはまだ今年度分は把握いたしておりません。分かり次第また御報告をいたします。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） また教えていただければと思いますが、今、新たな対策ということ質問をしました。さらに新たな行動が必要ではないかと、そういうことを質問させていただきます。

現在、新温泉町結婚活動推進委員会がこの町に設置されております。これの設置目的と掌握事務、会議の議論の内容はどのような議論をされているかということを確認したいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 御質問について、企画課のほうよりお答えをいたします。

○議長（宮本 泰男君） 水田企画課長。

○企画課長（水田 賢治君） 委員会のほうでは町内の未婚者に結婚をしていただくためのいろんな施策について協議をいただいております。今年度も7月に一度会議を持たせていただいております。その中で、現在の進捗状況であったり、それから、先ほどから言っておられます麒麟のまちとかの状況であったりとか、そういうことの状況確認をさせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 質問した理由というのは、失礼ながら、あまり機能していないん違うかという気を持っております。もっと動く、そういう組織なり、そういうものにできないんだろうかと。ちなみに鳥取のほうではとっとり婚活サポート事業でとっとり婚活サポーター、イベント団員や応援団、これ、団体とか事業所に応援を要請して、こういうような取組をしてるようであります。ぜひうちの活動推進委員会をもっと活発に動かす。議論も大事だけど、やっぱり実際に手をかける。以前におせっかいさん集合とか、おせっかいさんをピックアップして何とか声かけしてくださいとか、そんなことを実際に行動して、やっぱり縁結びということができないかということ改めて申し上げたいと思うんですが、いかがでしょうか、町長。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町の中には昔でいう仲人役、男性と女性を仲介して結婚に持っていく、そういう役がしたいという方があるということは私も直接聞いております。ただ、実態はなかなか進んでいないというふうな状況があります。ぜひ中村茂議員にもそういった役割を担っていただければありがたいな、そう思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 町長に言われることなく、私も陰ながらそういうおせっかいをしてるところであります。なかなか成果に結びついていないんですが、そういうこと

は日頃の活動の中で行ってる。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

今、委員会の設置のことを申し上げました。ぜひ中身というか、動きのある委員会にしてほしいということと併せて、新温泉町結婚活動支援事業補助金交付要綱、この辺りもそういう動きに合わせて見直しなり、ぜひしてほしいなど、そういうことを申し上げておきたいと思います。

以上で1番目の国調に関わる意見については押さえたいと思います。

次に、農産物等販売促進と後継者（担い手）対策について質問いたします。

本年度予算概要では、もうかる農業の実現に向けた年間を通じた農産物が出荷できる体制づくりを進めますとあります。従来からウィズ、アフターコロナについて意見、提言したところでありますが、農業関係について改めて提案をしたいと思います。

まず、町の総合計画、基本計画において、豊かな資源を生かして産業を育てるまち、農林水産業の振興、施策の目的の部分で、各産業における若い世代の担い手や後継者を確保するため、経営の安定化を図る取組を支援するとともに、やる気のある人が参入できる体制づくりを進めますと大方針があります。経営の安定化を図るにはそれなりの収益というものが必要になると思われれます。総合計画の中には農産物の販売促進なり、そういう方針が全く触れられてないんですが、なぜか、どうするのかというような具体的なところまで行かんにしても、計画の中では販売戦略とか、こういう部分で販売を伸ばすとか、そんな記述があってもいいと思うんですが、なぜないのかなということを知りたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおり、我が町の農業の生産力は極めて脆弱だと考えております。原因はいろいろあります。中山間地域が極めて多い、農地にする面積が極めて少ないこと、それから高齢化、こういった中で、最も大事な点として、農業に関する基本的な計画、これがないというのが、農業ビジョンがないと。兵庫県は兵庫県できっちりとしたビジョンがあります。新温泉町の農業ビジョンを早急につくる必要があると。農林水産業ですね。我が町は幸いに漁業、それから農業、それから林業、この3つあるわけです。3つとも基本的なビジョン、計画がない。こういうところからスタートすることによって目標値、計画をつくり、その計画に向かって一個一個推進を図っていく、こういうスタンスがこれまでなかったと考えております。そういった意味では、我が町の現状、つまり、持っている力をどう生かすか、そういうビジョンづくりを今後早急にやる必要があると考えておりますので、そういったことを基本に推進をまず図っていきたくて考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 総合計画の中にももうかる農業というような記述は全くないところであります。ただし、もうけないとどうしようもないという部分がありますから、ぜひ今のお気持ちを前向きに進めていただければと思いますし、現在、町内には農

業の生産団体なり生産組織というようなものはどの程度あるか掌握されておられるでしょうか。また、どのような販売方法をやってるかということも併せて聞きたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、農産物の出荷については、J Aが基本的に支援、バックアップをさせていただいております。農業生産高のうち、J Aが販売するJ A出荷分として昨年、令和3年度が7億5,600万円、そのうち米の出荷が2億6,000万円、これが一番多いんですけど、畜産が別途で、和牛の販売額が3億3,600万円、それから、次に多いのが種子もみ、種子とするもみですね、これが4,400万円、それから大根が6,600万円、小豆が400万円、ネギが500万円、ピーマンが1,500万円、こういったふうな状況でありまして、決して生産性、生産高がいいというわけではありません。ただ、この中には梨が全く入っておりません。そういうふうなことが農業生産の現状でありますし、また、生産者団体におきましてはJ Aたじまピーマン部会、それから大納言小豆生産者部会、それから兵庫北錦部会、それから種子組合、それからつちかおり米、それからふるさと但馬米産直部会、朝市婦人会、ネット販売など、こういった状況で、団体としては以上のような団体がこの農業生産に力を入れていただいております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 多くがJ Aなりの出荷ということでの売上げが多いようではありますが、委託販売、例えば道の駅での委託販売とか、またネット販売なり、その辺というのはある程度つかんでおられますか。特にネット販売なんていうのはどの程度の方がやっているかというようなことの調査はしたことがあるかどうかということも確認いたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 農産物のインターネット販売については、道の駅山陰海岸ジオパーク浜坂の郷が運営しているサイトを活用してPR及び販売促進につながるよう現在取り組んでおります。あと、個人がされているネット販売、これは具体的にはつかんでおりません。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 町としてこのネット販売なり通信販売を推進するような考えはないかということちょっと改めて確認したいと思います。答弁ください。

あわせて、次に、関連するんですが、私は従来からバーチャルデパートという表現で、ネット販売の提案してきました。本年度予算でインターネット販売サイトを立ち上げ、地域産物を町内外に広く販売できるよう情報発信していきますとありました。委員会なりでこれについての状況なりは聞いたことがないんですが、これの進捗状況、あわせて、実施主体と開設経費や運営経費のあたりについてもお知らせいただければと思います。今少し聞いたところでは道の駅でサイトを立ち上げたということをおっしゃってたんで

すが、もう少し詳しくお願いできますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、このネット販売の、インターネット販売サイトの立ち上げという点では道の駅浜坂の郷、ここで推進を図っているというのが実態であります。経費等については、サイトの写真など道の駅の素材を使用し、サイト制作は無料サイトを使って地域おこし協力隊員が主に推進を図っているところであります。今後農産物を使った加工品などの出店について、出荷者協議会と調整を行って推進を図りたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 順調に運営していただいておりますが、情報提供として、経済産業省のIT導入補助金というものがこの部分にあります。経済産業省が行うサービス等生産性向上IT導入支援事業のことを指すわけではありますが、ネットショップの作成サービスなど、IT事業を支援する、ITツールを導入する際に経費の一部を国が補助する制度で、具体的には、デジタル化基盤導入類型ネットショップにおいては制作について制作費の4分の3を補助する、また、もう少し低いレベルのやつについては3分の2を補助すると、こんなことがありますので、サイトの立ち上げのときにはぜひ活用されればと、そういうことを申し上げておきたいと思っております。

次に、これもちょっとネット販売に関係するんですが、令和2年度のコロナ対策で実施の新型コロナウイルス感染症対策農産物等販売促進活動支援事業補助金が事業実施されました。農業者等が新たに行う販売促進活動を支援することにより経営の維持と安定を図り、町の農業振興等に資する目的で実施されたものであります。同事業の実績で、件数と補助内容、それから同事業の評価はどうであったのかということ、それから、今後の発展はないかということを確認したいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和2年度に実施した販売促進活動支援事業補助金の実績であります。申請が51件ありました。内容については、新たに出荷、販売するための直売所の登録手数料が一番多かったようであります。そのほかとして、商品PRのためののぼり、それから看板の作成、ホームページの作成となっております。こういった農家では、この補助金の活用を機会に新たにインターネット通販や道の駅等販売所への出荷を開始された方、さらに農産物の販路拡大により農家の所得向上につながった方があったと聞いております。今後、支援事業補助金を活用する事業効果について検証し、事業展開を研究したいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 実際事業をされたときには、私はああ、そうかそうかっていう程度しかもう見てなかったんですが、やっぱり中身は深いですね。とっても僕は感動した部分があります。この要綱で実施については51件、そのうちにネット販売な

りが3件、新規出店が39件というふうなことを農林水産課のほうから聞いたんですが、このネット販売の1件の体験談を紹介いたします。

この方は令和2年春に自分自身でホームページを作り、ネット販売を行ったと。販売実績は6件程度だったようでありませう。その後、町のこの事業、同事業を活用し、通販サイトに登録し、自身のホームページに地域の魅力や情報をブログ掲載すると、相乗的な効果で一気に120件の販売につながったということがあります。ネット販売については消費者との距離が全くありませんし、全国が対象となるもんです。値段も自分で決定できる、山のタケノコも掘ってきて登録したらすぐ売れたと、手間な小豆をむく前のさやのまま売ったらすぐ売れたと。そういうことがすごい反応が早い。この方、農業の興味や面白さを知ったと。さらなる挑戦をしていきたいという話でありませう。いや、とってもすごいなと。年は僕たちと似たような年代なんですけう、新しい農業というか喜びを持ったということは次に発展するなと、そんなことを感じております。

これで感動して終わりというわけではないんですけう、元に戻っていただいて、後期基本計画担い手育成の部分では、新たに農林畜水産業を志す人に対し研修や相談の場づくりを進めるなど、実際に就労できるまでの就業支援を進めますというふうな計画にも記述されております。今の体験談なりからすれば、ネット販売の研修会なりをぜひやってほしいなと。その方たちのグループ化というか、そんなことも併せてできないのかなと。という、どちらかというくと小規模農家が多くだと思うんですけう、そういう取組について、先の事業の発展という部分で検討できませんか。答弁ください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） もうかる農業の、やはり作るばかりじゃなしに、販売ルートが必要だという具合に考えております。ふるさと納税でいろいろ出品するんですけど、実は悩みというのは、いわゆる同じ商品がどれだけ続くか、継続的に。途中で中断するとか、商品がそろわないとか、そういう農作物については弱みがあるかなという面もあるようでありませうので、そういった課題も農家、お持ちだと思います。そういった点では、議員御指摘のように、研究会を開いて、共通的な問題を解決するために、じゃあ町が何ができるか、そういった点、研究をしてみたいと考えます。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 研修会すれば、多分先ほどの新規出店だとか、それからJAに絡む直販グループだとか、今紹介いただきました道の駅出荷者協議会だとか、そういうところの方が結構注目度が高くて、参加してくれるのではないかなと私はそういうふうに思います。ぜひ研修会、グループ化なりを進めてほしいというふうに申し上げておきたいと思ひます。

それにちょっと関係するんですけう、小規模農家のネット販売に自治体が通販サイトと提携し支援している例もあります。先進例では安曇野市農産物等販売サイト出店促進事業というふうな制度をつくってございました。農業者が農産物等の販売ルートを拡大する

ことを推進するため、既存の通販サイトを利用する販売手数料の3分の1、15万円を限度として全額補助しますと。対象者は通販サイトを利用し農産物等を販売する農業者等。この事業の想定通販サイトは食べチョク、ポケットマルシェ、OWL、このような通販サイト、既存で今どンドン人気のサイトですが、この辺りに対して、そこに参画する場合に補助しますという制度であります。姫路のほうでもそういうふうな制度を持ってるようでもあります。

ぜひ、そうそう、この通販サイトに載るっていうのが、先ほどの体験談の中でも、要はサイトに載ることによって、やっぱり視聴者がたくさんいるんですね。だから、すぐ引っかかる。自分でこつこつホームページ作ってネット販売しても、なかなか引っかからないんですね。だから、そういう部分ではこの民間の通販サイトを使うということは本当に勝負が早いということ。逆に、そういうサイトが出店していただいた地域の情報を宣伝として流してくれるようなこともやってるようでもあります。ぜひ進めてほしいなという気がいたします。改めて町長の所見を聞きたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） eコマースということで、この通販による販売、アマゾンを中心にどンドンどンドン増えていると、売上げ、アマゾンも非常に伸びているようであります。一方で、旧来型の小売店は縮小ぎみと。町内でもそういう流れが顕著であります。そういった意味ではこの通販、インターネット販売、こういったものにやはり力を入れていく必要が当然の流れだと思っております。そういった意味でも、ふるさと納税もそういった側面がありますので、ふるさと納税も含めて、力を入れていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） それでは、次に行きたいと思うんですが、本町の特産、二十世紀梨が後継者不足や獣害対策から厳しい状況にあると、そういうふうに私は思っております。この二十世紀梨ですが、昭和27年頃から国のパイロット事業で梨園を開設して、早くから農事組合法人温泉町果樹園芸組合を設立し、竹田地区を中心に飯野、熊谷、歌長、浜坂にも一部あったようですが、最盛期には組合員も約86戸なりがあった組織であります。町のホームページでは、現在、農家数24戸が約10ヘクタールで二十世紀梨を栽培していますというふうに書いてあります。しかし、現実には実際に作っている方は13戸、約8ヘクタールに減少しているところであります。梨農家は生産をやめると、病虫害防除のために、長年にわたり育成した樹木の伐採が求められています。本当に身を切るような思いで伐採するという現実があるようでもあります。早くから新しい農業を目指していた農事法人の状況なんですが、こういう状況は町は認識されてるかということを確認いたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 竹田を中心に、かつては本当に竹田地域ではほとんどの家庭で

梨の栽培をやっておりました。現在は十数戸しかやってない。そういった状況の中、町の特産の一つであります梨の支援制度につきましては、やはりバックアップが必要だという具合に考えております。現在、国や県の事業で果樹の新品種導入、それから園地整備等に可能な補助事業があります、そういった制度の活用、それから、獣害対策などにつきましても、従来以上に野生動物育成林事業によりまして、野生対策の取組も強化を図る必要があるという具合に考えております。実際、農家の高齢化、後継者不足、そういう厳しい中、それから、竹田の場合は急傾斜地での梨栽培が極めて多い、そういう背景があります。そういった基本的な在り方の克服が必要だということであるんですけど、後継者があるところはまだまだ頑張っているようでもありますけど、後継者がないところは1件また1件とやめているというのが現状であります。支援策につきましては、農林水産課で改めて検討をしていきたいと考えます。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） これは情報なんですけど、兵庫県では平成30年度から地域主導型就農・定着応援プロジェクトに取り組んでおります。これについては承知されておられますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） その事業につきましては、課長のほうからお答えをいたします。私は存じておりません。

○議長（宮本 泰男君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 先ほどの県のプロジェクト事業の関係なんですけど、詳細については、申し訳ありません、確認ができておりません。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） この事業ですが、新規就農者に来てほしいと考える集落や産地、これが就農・定着を応援するチームをつくり、就農の検討に必要な空き家、農地、支援体制等の情報を記載した就農定着応援プランを作成し、積極的に情報発信するものであります。但馬では朝来市の岩津ねぎ、夜久野高原ネギ、但東地域ではピーマン、香美町では香住梨があります。

香住梨のちょっと現状なんですけど、香住では香住待ったなしというテーマの下でグループをつくり、町、県、JA、園芸組合等のサポートで新規就農者や後継者対策を行っております。本年度からは協力隊が1名入ってきました。農家に入って、今、研修作業なりということをやっておりますし、予定としては事業を継承するという予定であります。彼は就農フェアに参加したりしてPR、また次の担い手づくりにも一役買っていると、そんなうれしい状況があるようであります。本町も移住定住の拡大として取り組めないものかということをお気持を聞きたいと思っておりますし、本町の新規就農者の支援制度は改めてどのような内容であったのかなということをお聞かせしてほしいと思っておりますし、また、梨の農業後継者はその対象になるかということ、その辺りもお答えいただけ

ればと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新規就農の制度につきましては担当課長から答えていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 新規就農支援でございますが、先ほどの梨農家への新規就農、後継者不足対策としての新規就農としては新規就農者としての取組は可能というふうに考えております。町外から転入された新たな農業者、また、地元で新たに就農される農業者、希望がございましたら取組は可能というふうに考えておりますので、どのように具体的に就農の取組をされるかということをお聞きする中で、希望者が具体的にいらっしゃいましたら、調整進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 先ほど香住の待ったなしについて、県と併せてプロジェクトに取り組んでいると、その辺りについてはいかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 他町のいいところを取り込んで勉強させていただいて、我が町もそういった制度の早期の取組をやっていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） ぜひ期待したいと思っておりますし、梨農家を守ってほしいなと、そういう思いであります。

冒頭申しましたが、この梨園ですが、鹿による梨の被害が拡大しております。推計ですが、果樹園全体で300万円から500万円ぐらいの被害が発生しているという現実があります。網や電気柵、またラジオなどを活用しておりますが、ワイヤーメッシュ等、有効な対策はできないものかと。従来、農地、田んぼとか畑にはワイヤーメッシュとか推進してきたんですが、果樹園なんかについてはどうなんだろうかということ。また、ドローンとかそういうものを使った、駆除までいかにしても、やっぱり追っ払いとかそんなことも今の時代だから何か有効的にできないのかなということ、気になるんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 鳥獣対策についてはまちづくり懇談会でもテーマと上げております。皆さんやっぱり非常に深刻な状況、昨年も鹿が1,300頭、イノシシは少し減ったんですけど、非常に増えている状況があるのが実態でありますし、被害も増えていると、農家のやる気もうせていると、そういう状況がありますので、この鹿対策については特別に町としてこれまでもいろいろと取組が強化されておるわけですけど、さらなる強化をやっていきたい。とにかく頭数を減らすという、頭数を減らす、そういう取組を徹底をしていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 具体的に果樹園でワイヤーメッシュとかしたというような実績はたしかなかったと思うんですが、対象としては果樹園も一緒に考えたらいえんでしょうか、田んぼの周りをするようなことってというのは一緒に考えたらいいかということを確認したいと思いますし、町内では前例がないと思いますので、そういう部分では、緊急に鳥獣対策サポーターの派遣なりを要請して、早期な取組、こういう形ですべきというような方針というか、それを出してほしいなど。ぜひこれはもう緊急にしてほしい。そんな思いがあるんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 果樹園であるとか、そういったサポーターの要請、こういった点につきましては、改めて担当から現状の把握と、さらに支援ができないか、検討をいたします。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） サポーターの派遣は、課長、どうでしょうか、サポーターの派遣について。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 農林水産課長がお答えします。

○議長（宮本 泰男君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 獣害対策についてでございます。御質問のありましたワイヤーメッシュの囲う対策、補助事業でございますが、果樹園でも活用は可能でございます。ただ、要件ございまして、費用対効果等の要件がクリアすれば田んぼなんかを囲うのと同様に活用はできるということでございます。過去に実施した対策事業としましては、果樹園地と周辺の森林の部分のバッファゾーン、繁茂することによってバッファゾーンがなくなるとという現状を対策するというので、伐採することによってバッファゾーンをつくって、果樹園と森林のすみ分けをすると、そういった事業も過去にはやっておりますので、そういった事業との併用によって対策をするということが有効ではないかなというふうに考えております。以上です。

○議長（宮本 泰男君） サポーターについて。

○農林水産課長（原 憲一君） サポーター事業につきましても、御希望がありましたら活用は可能でございます。

あと、それから、すみません、ドローンについてのお話でしたが、ドローンを活用しての有害対策についてはまだ実例はないということでございます。まだ、実証実験というようなことで、具体的に言いましたら、銃を使った猟なんかの場合に猟犬を使った巻狩りというようなことをするんですが、その猟犬の代わりにドローンを活用するというようなことが実験的に行われているような情報は聞いておりますが、まだ実用はされていないというような状況でございます。以上です。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 待ってることもいいんだけど、出向いて相談に乗ってあげるとか、そんな気持ちを持ちながら、例えばこんな事業もあるよとか、さっきのバッファゾーンはとってもいい事業だと思うし、あわせて、ワイヤーメッシュとバッファゾーンをセットでやるとか、そんなことを、農林水産課の担当部門だと思いますから、いい方法を緊急に対応してほしいと申し上げておきたいと思います。

次に、世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に加え、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響により化学肥料、原料の国際価格が大幅に上昇し、肥料価格は急騰しております。私の身近では秋肥料の当用価格で土力の達人、これは元肥なんですけど、昨年の1.4倍、またあわせて、アヅミンが1.3倍と、そんな現実がもう本当にそこに迫ってる。こんな中で、朝来市や豊岡市については6月に支援制度が既にできております。本町の農家の支援は行わないのかということを確認いたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 少し遅くなったわけですけど、この9月の定例会におきまして、農業支援、肥料、飼料対策の支援策を提案させていただいております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 内容に期待したいところでありますが、これについては販売農家対象でしょうか。販売農家のみならず、野菜作りとかそういう部分で、肥料とか高くなっていると。朝来市の部分では補助対象肥料の10分の1の額を補助すると、購入費用が証明できる書類、レシートとか領収書の写しなど、こういうもんで補助するようでありますし、同一の申請者について年に2回まで申請を受けると、そんな事業も、小刻みな部分ですが、そういうこともあります。ぜひ参考にして、行き届いた支援を求めておきたいと思います。

次に、あわせてというか、今後の方針なりの部分ですが、農林水産省では海外原料に依存している化学肥料の低減や堆肥等の国内資源の活用を進めるための取組を行う農業者に対して肥料コスト上昇分の一部を支援すること、一部については約7割であります。これを現在実施しております。肥料価格高騰対策事業と称するものであるんですが、日本遺産、但馬牛の産地として、この制度に連動したような制度ができないものかということ。要は、町には堆肥利用、活用の要綱もたしか去年できましたよね。そういうものと、現在の農林水産省の行き方、要は化学肥料から切り替える、堆肥なり。目標20%と言ってますけど、そういうものをやっぱりいち早く取り組む、連動してやる、そんなことをしながら、この高騰対策に取り組み、将来的には、要は経費が削減された中での耕作っていうようなことを求めてほしいと思うんですが、町長のお考えはいかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘の御意見、大変参考になります。国の制度、いろい

ろあるようでありますので、そういった点、ちょっと研究をさせていただきたいと考えます。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） たくさん申しますが、JAが8月29日に発表しました今年の売価、米価のことなんですが、概算でつちかおり米が1等6,300円、みかた棚田米が1等6,500円、こんな数値を農家のほうに公表いたしました。引き続き低い米価ですので、昨年と米価対策、今年に事業を実施されて、反当4,000円でしたかね、ああいうものっていうのは再度検討する余地はないのかということをお願いしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） つちかおり米であるとか、酒米であるとか、いろいろあるわけですけど、制度につきましては再度、議員の御指摘を受けて、研究をしてみたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 農業関係につきましては以上で置きたいと思います。

続いて、地域運営組織の進捗と活動状況であります。総合計画では、地域運営組織を設立した地域と地域住民が主体となる活動を支援します。本年度の予算でも、集落の枠組みを超えて、広い範囲で活性化を図る新しい地域コミュニティー、地域運営組織づくりを推進しますとあります。

確認と提案をしたいと思います。現在の設立の状況と、設立されたところについてはどのような活動内容をしているか、また問題点はないか、その辺りを聞きたいと思えます。いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域運営組織の必要性というのは、集落が約60あるわけですけど、特に中山間地域の人口減少、高齢化によって、地域の集落維持が極めて難しい、区長の成り手もない、そういう地域が出ている、そういった中で、近辺集落が協力し合って、地域運営組織をつくることによって地域の維持をやっていこう、こういう趣旨がメインであります。課題というのは、やはり意見をまとめる話し合いの場づくり、そういったところ、それから、推進役を誰が担うのか、それから、予算はどうするのか、こういった課題があると思っております。

今回、成功事例として、奥八田地域が地域運営組織、立ち上げていただいております。こういった見本となる活動をされている奥八田地域の運営組織を基本にして、参考にして、それぞれの地域が、特に集落維持が大変難しい地域におきましては、こういった流れを広めていきたい、そう考えております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 集落維持が難しい地域も含めて、これからそうなるだろうと思える地域については、やっぱり早期に組織づくりをしてほしいなど、そういう思

いがあります。そういう中で、今どこまでできてるかということ。私は従来から熊谷地域のことを強く申し上げてまいりました。その辺りについてはどういうふうな展開というか、状況なのかなということを知りたいと思いますし、先ほど奥八田のことを聞かせていただきました。説明よく、調査というか、聞いてるんですが、それはちょっと置くとして、今までできた奥八田、八田、それから春来、諸寄ですかね、あの辺りの活動というのはどういうふうなことをされてるかということを知りたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、奥八田地域と、それから八田地区の2地区がこの地域運営組織を設立をいたしております。諸寄地域におきましては、令和5年度、来年度の設立ということで、現在準備中であります。それからまた、令和6年度をめどに浜坂自治区においても準備を進めているような、そのような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 先ほど申しました熊谷地域については、奥八田と併せて、早期に立ち上げが必要だと私は思うんですが、その辺り、今までからずっと申し上げてきました。どんな状況かということを確認いたしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 熊谷地域におきましては、ちょっと担当課、担当課長よりお答えをいただきます。

○議長（宮本 泰男君） 水田企画課長。

○企画課長（水田 賢治君） 熊谷地域につきましては、伊角地区と2つの集落で1つの運営組織をつくりたいというふうなことでお話をさせてきていただいておりますが、現在、お話の中身では、まだ取組の意向がないという判断でございます。なかなか組織の必要性の部分が御理解いただけなくて、非常に、組織をつくることの大変さのほうに少し代表の方の意向に反映をしているような感じになっております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） いろんな思いなりがあって、すんなりいかない部分もあるようであります、私も聞き取りなりをした結果では。ただし、そういうふうな必要性ということは感じると。そこにはやっぱり地域の人材だとか、そういうこともあったり、集落構成のこともあったり、いろいろするようであります。引き続き、やっぱり糸口を見つけて、まずはこういう制度を地域の方に知ってもらうということから始めないとどうしようもないのかなという気もいたしますので、ぜひ引き続いての努力をお願いしたいなという部分で、糸口の一つが、昨年実施した小規模集落元気調査、全戸調査しましたよね、小規模集落。あの辺りはすごくいい材料という、僕、気がするんですが、あれ、公表はされましたかいな。何だ、あんまり覚えがないんだけど。どうですか、公表されましたか。確認いたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まだ公表いたしておりません。公表したいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 改めて内容を見ると、今の住居のこととか、交通移動手段のこととか、今後の農地のこととか、インターネットの活用だとか、村おこしとか、移住者の受入れだとか、困っていること、集落の存続だとか、そういうアンケート項目であったように思います。それらを集約というか、集約した中で、次のステップに向けて、地域再生大作戦とかね、そういうものに段階的につなげていくための一番の基礎調査なんですよ。ですから、きちっと公表されて、この地域はこんな状況だということをやっぱり地域の方に返して、で、みんなで頑張りましょうと、というふうな材料にしてほしい。だから、公表されてないということは、多分地域にも返してないと思うし、こういうことをもってして、例えばさっきの熊谷はそうですよ。だから、そういうことの中で、地域事情をやっぱりあからさまにして、みんなで考える材料にすると。ぜひ公表して活用してほしいなど、そういうふう思うところであります。後で答弁をください。

それから、先ほど奥八田地域の、言わば先進例で、成功例まではまだまだだと思っておりますが、この地域運営組織、奥八田、独り暮らし高齢者の買物や家事の支援を行うため、買物支援サービスを始めました。同会の発足から、地域外への移動手段、足の確保ということの大命題にしていった結果の事業であります。予約制で週2回、利用者は1回1000円、車両購入費等、開設費については、約200万円の経費は地域で賄っております。今後、通院や除雪などにも支援拡大と聞いております。行政の手が届かないところの活動ですが、地域運営組織の先進例として、活動交付金など支援策は必要だと私は思います。

行政がどこまでできるかということは別としても、やっぱり行政が手が届かない部分がある。それを、やっぱり地域がそのことを受け持ってくれる、その最たる例がこれじゃないかなと。だから、町民バスを否定するわけでもない、本当にドアからドア、要は家からスーパーまで行けると。バス停から降りて、歩いて、足が痛いのに。そんなことを解消していかないといけない現実がある。それをやってくれてる。ぜひ支援策、これは今後続く地域運営組織なりに共通して言えることだと思います。全部負担金、みんなから取ったらええがな、そんなもんじゃない。

この弊害は、やっぱり有償運行が一番の課題だったみたいですね。本当はバス代ぐらいは頂きたい。でも、有償運行の壁が厚くて、1回1000円というふうに落ち着いたみたいですね。ぜひ、この件に関しては多分関係課が関わって推進したと思いますし、同じような推進の仕方をしながら、ほかの地域でも、別の事業でまたこんなことが必要になる可能性がありますから。ぜひ交付金なり、そういうふうな立ち上げをぜひ検討してほしい。そうすることによって、次につながる。そういうふう思うところであります。ぜひ検討をください。答弁いただけますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 奥八田運営組織というのは、様々な買物サービスであるとか、取組を始められているわけですが、これを維持、継続するにはやはり資金が要と思います。資金なくして継続というのは大変難しい状況があります。現在、集落支援員制度というのはあるんですけど、これはそういった活動費に、集落支援員の人件費には使ったわけですが、活動費にはなかなか制約があるようであります。そういった点では、町独自の支援策を検討する必要があるという具合に考えております。それによって、それぞれの地域の地域運営組織の立ち上げの推進もできると思いますので、そういう資金面の見直しというか、補助を検討していきたいと思っております。

それから、先ほどの集落の調査でありますけど、全集落の調査をしたわけではありません。特定の、人口減少が厳しい地域、それから、中山間にある集落の調査、こういった高齢化率が一定以上の集落調査であります。これ、実は公表したい部分と、公表することによって、ちょっと何ていいますか、個人情報的な、個人は特定してないわけですが、特定できるような地域もありますので、この公表においては少し検討させていただきたいと思いますが、基本的にはできるだけ公表するようにさせていただきます。そこは御了解をいただきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 先ほどの熊谷地域においては、地区公民館ということも含んでおりますので、私の思いとしては。ぜひ教育委員会も、他人事ではなく当事者として、一緒になって連携してやってほしいなど、そういうことを申し上げておきたいと思っております。

時間が気になると思いますが、今回、3点を申し上げました。いずれも前向きな答弁をいただきまして、誠に感謝を申し上げたいと思っております。ぜひ、力いっぱい元気のある町をつくってほしいと思っております。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（宮本 泰男君） これで中村茂君の質問を終わります。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。10時30分まで。

午前10時15分休憩

午前10時30分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、9番、重本静男君の質問を許可いたします。

9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） ただいま議長より発言のお許しをいただきました、9番、重本静男でございます。通告に従いまして、質問をさせていただきます。

1番目の子ども・子育て支援についてお伺いいたします。安心して子供を産み育てる

環境の整備を進めるためには、子育て支援に関係する各機関と連携して、地域ぐるみで、社会全体で子供たちの成長を見守ることが重要であります。子育てに係る経済的負担の軽減や環境の整備など、本町の政策について何点かお伺いいたします。

まず1つ目は、さきの臨時会で浜坂認定こども園の耐震診断業務委託費が議会で認められ、ようやく老朽化している園舎の耐震補強工事が行われる運びとなりました。私個人としては現在地周辺での新築を希望していたのですが、かないませんでした。耐震補強工事に伴い、仮園舎設置場所をすこやか広場にと示されました。同僚議員も質問しておりましたが、体育協会やスポーツ等で使用される団体、周辺の住民の方々の同意は取れているのかをお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 非常に遅れておりました、浜坂認定こども園の整備であります。8月臨時会におきまして、耐震診断調査費を認めていただきました。少しずつ前進ができるかなと思っておりますが、引き続き議員の皆様のお協力をお願いしたいと思います。

この浜坂地域の認定こども園の耐震改修における工事期間中の仮設園舎は、すこやか広場を予定いたしております。現在、グラウンド利用者との調整が必要になることから、町、スポーツ協会を通じ、各団体との調整を行っております。同時に、通園等による宇都野町の町内会への影響も当然考えられます。町内会の方々、それから、もちろん地域の、浜坂地域を含め、地域の皆様方に、9月7日に住民説明会を開催する予定です。そういった説明会をする中で理解をいただきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 一番心配していたことなんですけど、一応あそこに決まったのに、住民の方の反対があればちょっと厳しいかなという思いでおったんですけど、何とか道筋はつけておられるようですし、引き続き最後まできちり説明していただいて、理解あるように説明をしていただけたらと思います。

それと、もう1点なんですけど、一応今、仮園舎のことを言いました。当初、空いている既存の土地、建物を利用するというようなことであつたんですけど、そういったことは全く考えていないということで理解したらいいですね。よろしく申し上げます。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当然コスト面で、既存の建物を使うことによってどうか、そういった面も検討させていただきました。子育てセンターの活用をできないかとか、空いている施設の利活用ができないか、十分に所管の担当者を含めて検討をさせていただいた結果、やはりすこやか広場での仮園舎がいいのではないかと、そういうことになりました。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 地域住民の方と十分協議していただけたらと思います。

次に、今年度給食費を改定し、学校給食費の充実と、児童生徒の給食費を半額助成し子育て支援をしていただきましたが、今なお給食費の未納がある現状から、さらなる支援が必要と思いますが、給食費の全額助成、要は無償化の考えはあるかどうかお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 給食費の助成の原資が、実はふるさと納税を使わせていただいております。一昨年は3億2,000万円あったんですけど、去年は2億6,000万円ということで、大きく、約2割減少いたしました。そういったこともありまして、まず半額を今年度はスタートをさせていただいております。今後、ふるさと納税、前向きに取り組んで、この事業がさらに充実をできるように、充実というのは全額補助ができるように、ふるさと納税の状況を見ながら検討、充実を図っていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 町長はよく、子供にお金をかけて何が悪いんだというようなことで私、聞いとりまして、子供たちにお金をかけていただける町長、応援したいなという思いでございましたので、引き続きお願いしたいと思います。

次に、子育てはいつの時代でも大変重労働であると思います。息抜きに近くの公園で遊ばせたり、乳母車で散歩したり、屋外に出て気分転換をしているお母さんを見かけます。晴れの日はいいのですが、雨天や積雪時には外では遊べません。そこで、屋内で遊べる場所があればと思い、今回の質問をいたしました。屋内に遊具等、設置の計画はあるかお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在のところ、屋内の子供の遊ぶ施設の計画はありません。山陰地方は、冬は雪が降り、また比較的雨が多いというふうな地域であります。屋内運動場、屋内の遊び場があれば非常にいいなと思うんですけど、現在、例えば、ちょっと遠いんですけど、照来のドームであるとか、そういう施設もあります。そういった施設を使ってはどうかと考えております。ただ、遊戯、遊び場としては使っておりませんので、テニスコートであるとか、そういったグラウンドゴルフであるとか、どちらかというと大人向けの施設になっております。現状では計画はありませんが、資金力であるとか、町の状況をよく意見を聞きながら考えていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 先日、企画課の企画によりまして、「汽車に乗って出かけてみよう」第一弾というのに孫と参加させていただきました。浜坂駅から豊岡駅まで乗車しまして、豊岡で孫と遊んだというようなところであります。当然帰りは往復切符買っていますので、豊岡駅でまた浜坂駅まで帰ってきました。

その待ち時間に、駅とつながっている豊岡の大型商業施設とでもいいですか、そこに入ってみましたら、その中にこども広場という遊び場がありました。すぐすぐ孫と一緒に

に行こうと思ってしたんですけど、時間の関係でその日は遊べませんでしたけど、そういった施設、とてもいい施設だなと思いました。といいますのも、ゼロ歳から小学6年生までの入園が可能ということで、中学生以上は入れないんですけど、親と子、親というのは保護者ですね、と行けたら入れるということで、事前申込みが必要なんですけど、1クール90分、1時間半の間で遊べるというようなことで、その料金は1クール、子供が200円、大人が300円というような非常に安価な施設で、屋内で遊ぶに本当に素晴らしい施設だなと思ったようなところであります。こういった施設を見たものですから、ああいった立派なのじゃなくっても、今ある既存の施設にそういった簡単な遊具ですね、子供が遊べる、そういった施設を設置したらどうかなという思いでお話しさせていただいております。

そういった施設なんですけど、先ほど町長、健康公園のドームのことをおっしゃいましたけど、今ある、例えばゆめっこ認定こども園の隣にあります温泉子育て支援センター、ここがちょっとそういったスペースにいいんじゃないかなと思っております。お聞きすれば、やっぱりそんなたくさん、いっぱいになるほど子供も集まってないようだし、そういった遊具を設置すれば、子供たちが遊べて、どんどん来れるんじゃないかというようなことで、ひとつ御提案をさせていただきます。

そのほか、浜坂子育て支援センターであるとか、健康福祉センター「すこやか〜に」の2階の空いてる部屋とか、そういったところを利用したらどうかなということを感じましたので、そこらのことも検討してみただけならと思います。

あと、そういった施設は土曜日、日曜日は休みなもので、利用できないと思いますので、やっぱり日曜日でも使える、例えばリフレッシュ館の2階、ここもちょっと狭いから無理かも分かりませんが、そういった、日曜日でも子供たちが室内で遊べるというようなところをひとつ考えていただけたらと思います。そこら辺り、町長、いかがでしょう。実際利用できるかどうか分かりませんが、検討してもらえる余地があるかお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私も先日、JRの会議があって豊岡、県民局に行くときに、駅前の百貨店、アイティの3階、食堂の一角に有料の遊び場がありました。多分、議員が言われているのはそのことだと思います。私も見させていただきました、外からです。確かに遊具、子供が乗りたくなるような、使いたくなるような遊具がたくさんありまして、素晴らしいなと思いました。そういうものを、「すこやか〜に」の2階であるとか、そういうところに設置してはどうかという議員の御意見だと思います。現在、既に子育ての、放課後児童クラブとして使っておるといふうなことで、一定の遊び道具はあるようであります。その中身を充実すればいいのかなという面もありますので、ちょっと検討はできると思いますので、一度、大型遊具、大きな投資はできないと思うんですけど、検討する余地はあると思いますので、考えてみたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 町長は名前を出しましたが、私、ちょっとそれを避けて、豊岡の大型商業施設というようなことを申し上げたんですけど、多分同じ施設だと思います。検討のほうをしていただけたらと思います。

次に、牧場公園に大型遊具の設置がされましたんですけど、それを見た浜坂の子育てのお母さん、お父さんからの話なんですけど、そういった施設を浜坂地域にも設置してほしいというような要望を聞いております。なかなか同じ大きさの施設はできないかも分からないんですけど、やっぱり浜坂地域にもそういった遊具があればいいというようなことをお聞きしておりますので、そこら辺り、浜坂地域に遊具を設置するというような考えはありますか、お伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、公園として白馬公園、浜坂ポケットパーク、それから、諸寄には児童公園、旭町にも児童公園、それから秋葉台の公園などがあるわけですが、いずれも大型遊具はついておりません。滑り台程度というふうな状況であります。3年前のまちづくりの懇談会の中で、お母さん方がやはり大型遊具を切望されておりました。岩美に行ったり、鳥取に出る、そういう状況を聞いております。ぜひ新温泉、浜坂地域に造ってほしいというたくさんの方の意見聞いておりますので、設置場所も含めて、十分検討する余地があると思っておりますので、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） やっぱり今、私も設置してほしいような場所を、町長、今3つ4つ言われたと思っておりますけど、私もそこら辺りを考えておりました。

それで、ちょっと、白馬公園は建設課の管理だというようなことを聞いたことがあるんですけど、そこで本町、例えば遊具、小さい遊具でも取付けは可能なものか、その点だけちょっとお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 白馬公園は建設課の所管であります。旧浜坂警察署の跡地、これ今、公園化、ポケットパークとして、公園としておるわけですが、ここにも一部遊具がついております。そういったことで、遊具の設置は可能だという具合に考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） ぜひ、浜坂の子供たちが待っておりますので、鋭意検討していただけたらと思います。

次に、本町の高齢化率は上昇傾向にあり、住み慣れた地域で安心して暮らしていける施策が重要であります。そこで1番目に、コロナワクチン4回目接種が高齢者から順次行われておりますけど、その現状と今後の予定についてお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在4回目の接種を行っております。60歳以上の方、それから、18歳から60歳未満の基礎疾患をお持ちの方などに行っております。8月30日現在で、対象者6,120人のうち3,876名、63.3%の方が接種を終えました。現状はそのような状況でありますし、また、この後、9月11日、9月24日、予定をいたしております。集団接種はそれで完了する予定でありますし、個別接種につきましては、それぞれの医療機関で9月30日までをめどに随時実施を予定いたしております。そのような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） やっぱり4回接種すれば、ちょっと安心かなというような思いでおるんですけど、ここ、次の質問に出てくるんですけど、コロナ感染者が増えとるというようなことで、まだ接種されていない人、これに関しまして、やっぱり町当局のほうより声をかけて、どうですかというようなことでお知らせしていただけたらと思うんですけど、そういった、してない方の声かけといいますか、御案内はされておりますか。そこら辺りもちょっとお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） コロナに感染する可能性は誰でもあるわけですから、やはりしてない方の接種も極めて重要だと考えております。

今の取組状況を健康福祉課長から答えていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 朝野健康福祉課長。

○健康福祉課長（朝野 繁君） 接種をされていない方への啓発の件です。健康福祉課のほうではコロナのワクチン接種について、4月以降、6回、先行配布で啓発をさせていただいております。直近でも、区長・町内会長便で全戸配布チラシを配布をさせていただきまして、接種の御案内をさせていただいているというところで、接種の推進を進めているというところでございます。以上です。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 今回の報告で、全体の63.3%というようなことを言われたものですから、もっとこの比率を上げる意味でも、もっと声かけせないけんじゃないかというふうに思いますので、ぜひ御検討を願いたいと思います。

それで、2番目なんですけど、神戸新聞に毎日のように掲載があります。新型コロナウイルス感染者数、これは9月1日現在で、今日の新聞なんですけど、本町で12人増加して、1,233人になっているようです。昨日の同僚議員からも質問がありましたけど、本当にどんどん増えてきております。この感染者の状況を年代別に把握しているかどうか、町長にお尋ねしたいと思っておりますし、そういった、年代別ですから、例えば小さい子供、かかっている人数を含めて、今後の取組をお伺いしたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 感染者の把握につきましては、基本的に県が発表する、それを受けて町が分かると、そういう状況であります。町独自で調べることができない、そういう実態があります。そういうふうなことで、後追いといいますか、後で確認して分かるというふうなこと。新聞が一番早いなという、そういう面もあるようであります。個別の患者の状況につきましての詳細につきましても、例えば年代ごとであるとか、そういう感染状況は町では把握はできないと、そんな状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 数字だけ報告させてもらったんですけど、ここにおられる教育長もなられましたし、本当に誰がいつ感染するか分からないような状況でありますので、いつも町長、放送で気をつけるようなことを言っておられますけど、引き続いて個人個人が気をつけながら、町民に啓発をしていただけたらと思います。

次、3番目であります。令和4年3月議会で、買物難民の支援についてお尋ねをいたしました。先ほど同僚議員も出ておりましたけど、町としては取り組んでいなかったんですけど、先ほども出ました、奥八田地域づくり協議会が車を購入して買物の支援をしているというようなことを聞きましたし、また、私も八田に上がってそういった話を聞いてまいりました。そういったことで、町として、外出支援が必要な高齢者に対して今後どのような支援を考えているか、お尋ねいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 高齢化率、高齢者が増える中で、交通の足を確保する、これは非常に極めて重要な施策の一つだと考えております。現在、特に福祉タクシーなどを充実を図っておりますが、さらなる多方面の充実を図る必要があると考えております。例えば、体の不自由な方々、妊産婦の方々、そんな方々、それから、高齢者の運転免許証返納が増えております。こういった方々の制度、既に充実を図っている面もあるんですけど、町の現状を十分把握する中で、さらなる充実をやっていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 買物の支援ということで、先ほども同僚議員が詳しく報告していただきました。取りあえず買物が主なわけなんですけど、今後、やっぱり通院であるとか、通院といいますのは浜坂病院であったり、鳥取の大きな病院であったりされると思うんですけど、先ほど言いました、奥八田地域づくり協議会としては温泉地域のみにとどめておるといふようなことで、町内のスーパーであるとか、コンビニであるとか、小さい病院であるとかといふようなことで、温泉地域にとどめとるといふようなことでありますけど、これを拡充していただいて、浜坂病院であるとか、鳥取であるとかいふようなことで広げていただけたら、随分、車のない、運転のできない人の手助けになるんじゃないかと思っております。そういったことで、拡充すればやっぱり当然費用もかかりますし、同僚議員も言ったように、本町から支援をしていただけたらと思います。重複になりますけど、そこら辺りの金銭的な助成はできるかどうか、町長、お尋

ねいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 奥八田地域運営組織は主体的に取り組んでいただいております。ただ、やはり資金がないとこういった事業が長続きしないという面があります。先ほどの中村議員の一般質問にもお答えしたんですけど、資金、町の支援も当然ですし、資金をつくるためのそういった運営組織の在り方、資金をつくるためには営業といいますか、そういう活動、営業のみならず、いろんな支援の、一般の方々の支援の充実であるとか、いろいろ考えられると思います。そういった面で、やはり長続きするためにどうあるべきか、そういう視点で町も検討をしていきたいと考えます。現状では奥八田地域ですけど、来年度諸寄地域、再来年度は浜坂地域も検討するというふうな状況であります。特に諸寄地域は、奥諸寄、遠い地域もありますし、そういう遠い地域の交通の便の確保、そういったものをどう充実するか、課題解決をするための知恵を絞っていききたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 次に、独り暮らしの高齢者の見守りをどうするのかというようなことをお伺いしたいと思います。最初の町長の、昨日ですか、昨日の例で、地元の方が孤独死されたというようなことで、やっぱり気がついたのは新聞のたまっとったことで分かったとか、そういったことで、民生委員を通じて独り暮らしの高齢者の方の見守りをしていると思うんですけど、それ以外に本町として、そういった独り暮らしのお年寄りをどのように見守るかというようなことをお伺いしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、独り暮らしの高齢者の見守りについて、浜坂地域では地域包括支援センターの相談員、それから温泉地域では在宅介護支援センター、これは社会福祉法人春來福祉会、特別養護老人ホームゆむらですね、歌長の老人ホームのケアマネジャーが状況に応じ定期的、または不定期的に訪問いたしております。その上で現状把握と相談に乗っているという、このような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 孤独死のないような町にしていきたいと思っておりますので、そこら、高齢者の見守りは町民みんなですというようなことで啓発していただけたらと思います。

次に、令和2年12月の議会で私が提案したわけなんですけど、緊急時に駆けつけた救急隊員が、その人に必要な情報を素早く正確に把握し、適切な救急活動ができるよう、あらかじめ自分の医療情報を容器に入れて冷蔵庫に保管していくという、救急医療情報キットの取組についてお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 救急医療情報キットの取組であります。現在、独り暮らしの高齢者などの万一の救急時に備えるため、医療状況、緊急連絡先などを専用の容器に入れ、そして、自宅の冷蔵庫に保管しておくことで、緊急時に駆けつけた救急隊員の適切な救命活動に素早く対応できるというふうなことを目的に推進を図っております。現在、社会福祉協議会が中心になり、各地域のサロン、それから、地域にコーディネーターを派遣して、救急医療情報キットの説明並びに設置に御協力をいただいております。実績といたしまして、令和3年度91個、それから令和4年度、10地域で8月末現在208個のキットの設置を行っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 私が質問したときの当時の町長の答弁を見ますと、救急隊員が駆けつけた場合、いち早く対応ができ、大変貴重で便利なものだと考えており、町としても運用方法などを検討するというような答弁をいただきました。健康福祉課を中心に取り組んでいただけのものと思っておりましたが、コロナウイルス感染対策やコロナワクチン接種の準備等で忙しくて取り組めなかったんだなというようなことを私としては理解しております。

そのような中、今町長申し上げました、社会福祉協議会が取り組んでいるという情報を得まして、担当の方とお会いして取組状況を聞いてきたところであります。4月に先ほど言いました奥八田文化交流施設みあけで、田中地区のサロン活動に参加されない方も出てきたというようなことで、これは区長の計らいで、地区放送でサロンがあるというようなことを放送したみたいであります。そしたら、今言いましたように、サロンに普通参加されない方も出てきて、作成に関わったというようなことで、これまで、今言いましたけど、19か所で299人ですか、のキットが作られたというようなことを聞いております。

つい最近、私の地区でも、福祉委員中心に竹田のサロンでキット作りをされたようであります。10人くらい参加されていまして、今現在300人分の医療情報キットが冷蔵庫の中に収まっているものと思われまして。今後もそういった取組を町全体に広めさせていただきまして、一人でも助かる命を助けていただきたいという思いであります。そういったことで、社会福祉協議会だけに任せるんじゃなくて、例えば、これもなかなか手間がかかるし、仕事を持ちながら大変だと思うんですけど、民生委員が独り暮らしの老人を見守っているというようなことで、民生委員の方にも協力していただいて、1つでも多く情報キットを設置していただけたらと思います。そういったことを御提案申し上げまして、この項を終わりたいと思います。

次に、3番目のマイナンバー制度についてお伺いしたいと思います。行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律が成立し、平成28年1月1日よりマイナンバー制度が導入されました。行政の効率化、国民の利便性の向上、公平公正な社会の実現のために行う社会基盤でありますけど、本町の取組をお伺いしたいと

思います。

まず、1番目のマイナンバーカードの交付状況をお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） マイナンバーカードの交付状況であります。7月末現在、申請件数が6,147件で、申請率が町民全体の44%であります。このうち、交付された件数が5,156件、率として36.9%であります。それから、8月7日現在の速報値として、申請件数が6,259件で、申請率44.8%、交付された件数が5,226件で、交付率が37.4%となっております。県下には、兵庫県、41市町があるわけですが、現在、最下位の41位となっております。そういうこともあって、一生懸命推進、交付率の申請を増やすように職員一同頑張っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 今、数字を聞かせてもらったんですけど、やっぱりまだまだ町長の言われたように低いものであります。

それで、いつのときですか、町長が年度内に100%達成するぞというような意気込みでおったと思うんですけど、そこで2番目なんですけど、新温泉町生活応援クーポン券の出張引換所を開設されました。あわせて、マイナンバーカードの移動申請窓口設置によりまして作成をするというようなことでありましたんですけど、その成果についてお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そのような大変推進が遅れているという状況もありまして、現在、要望のある集落へ職員が直接出向いて、マイナンバーカードの出張申請サポート、写真撮り、それから書類の支援協力を行っております。8月末現在、22か所に地域、施設に出向いております、約300名を超える申請をいただいております。そのような取組をいたしております。当然、生活応援クーポン券の配付におきましても、職員の出張で申請を受け付けさせていただいております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） このマイナンバーカードの申請ですけど、私や同僚議員も言っておりましたが、なかなか手続がしにくい。例えば写真が必要だから、高齢者の方はなかなか写真添付するのが困るというようなことで心配していたところ、窓口に行けば写真も撮ってくれるというようなことで、随分しやすくなったなというふうに思います。そういったことで、とにかくたくさん発券するようにやっていただけたらと思います。

次に、マイナンバーカードの取得の必要性と町民への周知の方法というようなことで上げさせてもらっておるんですけど、実はこの3番目の質問を、要は通告書を提出した後に広報しんおんせんが届きまして、中を見ますと、町長自らマイナンバーカードの広告塔となって載っておりました。4ページにわたって出ていたわけなんですけど、そこ

で、町民への周知の方法はもう聞くまでもありませんが、マイナンバーカードの取得の必要性について、その点だけお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） このマイナンバーカード、将来的に免許証であるとか、いろいろな申請書類、例えば住民税の交付であるとか、それから、税に関する申請であるとか、いろんなところにこのマイナンバーカードが役に立つという、そういう国の取組があります。現在、メリットとして、健康保険証として利用が可能となっております。それから、このマイナンバーカードを持つことによって、例えば運転免許証を返納された方々の身分証明書として活用ができます。それから、現在、この戸籍システム等の変更、更新に合わせて、今年度末からコンビニにおいて住民票、印鑑登録証明書、こういったものの交付がこのマイナンバーカードの利用によって手続が簡単になるというふうなこと、このような、各種課税証明書ももちろんです、こういった行政手続上の利便性が大幅に改善されると、スピードアップされる、便利になるという、そういうふうなことになっております。そういう意味で、個人情報に対する個人情報漏れを心配されるわけですけど、カードそのものには住所と名前ぐらいしか登録されないというふうなことでありますので、漏れる心配は極めて少ない、そういう状況であります。ぜひ、こういう状況でありますので、改めて、まだお持ちでない町民の皆様には一刻も早く申請をお願いしたい、そう思っております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 今の答弁の中で保険証の代わりになるというようなことを申されましたけど、実際もう保険証がなくなるということであれば、このマイナンバーカード、どうしても作らないけんというようなことになろうかと思うんですけど、今現在は保険証も使えて、マイナンバーカードでもいけるというようなことだろうと思います。そういったところで、実際、本当の保険証代わりっていうのは、マイナンバーカードの作成には何かつながらんじゃないかと思うんですけど、そこはあんまり言わないようにして進めていただけたらと思います。まだこれからですけど、コンビニで24時間そういった証明書が取れるというようなところを大きく前面に出していただけたらと思います。

次に、4番目のふるさと納税についてお尋ねいたします。ふるさと納税は本町の貴重な自主財産であり、より一層の工夫をして増収を目指す努力が必要と思います。町長の所見をお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと納税は、交付税に次ぐ貴重な自主財源であります。と同時に、この町の事業者、農業者、いろいろな方々の経営意欲、こういったものをレベルアップにつなぐ、そういった力もあるという具合に考えております。そういった点で力を入れていきたいと考えております。

現在、ふるさと納税の強化すべき施策、まず、竹田の梨をふるさと納税に出品をお願いしたい、それがまず一番であります。それから、先日、麒麟トラベラーという新しい会社がふるさと納税に取り組むというふうなことがあって、民間会社がやはり出ることによって、いろんな意味で裾野が広がる、こういうすばらしい状況もあるようでありますので、そういったところを期待をいたしております。現在、昨年は一昨年と比べて約5,000万円ぐらい減ったわけですけど、今年はさらにちょっと厳しく、7月末現在、金額で4%ぐらい減少いたしております。この推進策としては、先ほど申し上げました以上に、ポータルサイト数を増やすこと、それから返礼品の事業者を増やしていくこと、それから、返礼品の品目を増やすということ、こういったことを主にやっていきたいと考えております。地域には、まだまだ、何ていいますか、掘り起こせてないふるさと納税の商品になり得るものがたくさんあると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） これから聞こうと思ったことも言われたんですけど、先ほど町長言われましたように、果樹の返礼品が少ないというようなこと、全然ないのかな、というようなことで、私も組合の世話をさせてもらっている立場から申し上げさせてもらおうと、返礼品、梨の注文がどんどん来た場合、その対応はし切れんというような思いがあります。そこで、何とか、でも、本町の特産品ということで梨を全国に知らしめたいという思いもあるわけなんですけど、そこら辺り、数を限定するとか、やり方はあるかと思えます。ぜひそこら辺りも取り組んでみたいと思えますので、返礼品の品目に加えられたらと思えます。昨年まで229品目が4品目減って225品目というようなことで、返礼品を充実させるとか、今、町長も申しましたけど、いろんな考え、特に旅館の方の、やっぱりコロナ禍によってなかなか返礼品がしづらいというようなところもあろうかと思えます。いろんな知恵を出し合って進めていただけたらと思えます。

次に、3番目なんですけど、やっぱりふるさと納税に力を入れてもらうためには、ふるさと納税推進する部屋、推進室であるとか、そのふるさと納税に専属でかかる担当者を配置するとかいうようなことが必要じゃないかと思えますけど、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおり、現在、総務課、それから商工観光課、2つの課でこのふるさと納税を担当いたしております。どちらが軸になるんだということで、現在PR、それから事業者の開拓、そういったものは商工観光課、それから、総務課では受け入れした場合の受入れ対応、それからポータルサイトの運営、こういったものを行っております。やはり他町では専門の部屋を、推進室をつくってやっている、そういうのが大半であります。本町では2つに分かれているということで、効率という面ではやはり課題があるという具合に考えております。そういった意味で、現状では2つでやっとなんですけど、今後、一本化に向けて、よりふるさと納税の推進を図るため

に一本化をやっていきたい、そう考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。

○議員（9番 重本 静男君） 初年度6,300万円から、次の年、19年度は1億4,200万円、20年度が3億1,900万円、先ほど言いましたけど、昨年が2億6,200万円というようなことで下がってきたようなんですけど、これを今年度の目標は3億円というように聞いております。達成のためにはいろんな施策があろうかと思えますけど、本当に皆さんで力を結集して取り組んでいただけたらと思えます。

以前よく町長、東京に出張とか、何ですか、東京の但馬会っていうんですか、新温泉町会っていうんですか、そういったところに出向いて行って頼んだとかいうようなことですけど、この御時世、コロナ禍で、なかなかリモートであろうとかいうようなことで、直接会って話ができていると思うんですけど、リモートとかでどんどんやっぱり知り合いに声をかけていただけたらと思えます。

次に、企業版ふるさと納税についてであります。昨年に引き続き、今年度も岩美町の会社から地方創生応援税制、これが企業版ふるさと納税っていうんですけど、による寄附をいただいております。この企業版ふるさと納税の今後の取組をお聞かせください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この企業版ふるさと納税、他の議員からもたくさんの御意見を、もっと取り組めという御意見をいただいております。昨年は1件、それから今年度も1件、寄附がありました。事業者に対するメリット、最高で約9割の税制面における控除ができるというふうなことで、非常に企業にとっては利用しやすいというふうなこと、それから、本町にとりましても、一定の何に使うという使用目的をきっちり定めた上で、この企業版ふるさと納税の推進を強力に図っていきたくて思っております。何よりも、知人、知り合いの企業、つながりのある企業にやはりお願いをすることが近道かなと考えております。さらには、いろんな東京但馬会であるとか、大阪但馬会であるとか、東京の兵庫県人会、そういった知識もあります。つながりもあります。さらに、鳥取但馬会などたくさんの新温泉出身の方もいらっしゃいます。そういった方々に私も率先して営業をしていきたい、そのように考えております。

○議長（宮本 泰男君） 9番、重本静男君。残り時間が少なくなってまいりましたので、整理して質問してください。

○議員（9番 重本 静男君） 私とこのふるさと納税との関わりは、温泉町特産振興会の視察研修で米子市を訪問したときであります。市の職員からふるさと納税の取組の説明を受け、熱く語られたことが私の心に残り、本町でも取り組めばいいのにといい、議員1年生でふるさと納税を推進すべきと提案をいたしました。そして、現在に至っております。総務省が打ち出してから10年遅れでした。引き続き強力に推進されますようお願い申し上げます、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと納税、実は、例えば件数では少し、少しといいますが、昨年と比べても今年度は減っております。金額的にはかなり昨年並みにあるんですけど、やはり件数を増やすということが大事だと思っております。例えば、町職員が現在、正職、会計年度職員入れて約500名、1人が友達1人に声をかける、それだけで500、一挙に増えるというふうなことがあります。やはり知り合いに、なじみのある方に声をかけるというのが非常に効果的だという具合に考えております。ぜひそういう点も含めて、職員、私も含めて、自ら率先垂範やっていきたいと思っておりますので、議員の皆様にも御協力をいただければと思っております。

○議長（宮本 泰男君） これで9番、重本静男君の質問を終わります。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。11時45分まで。

午前11時36分休憩

午前11時45分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、2番、西村龍平君の質問を許可いたします。

2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、一般質問の許可をいただきましたので、質問のほうを始めさせていただきたいと思っております。

まず1つ目なんですけど、6月定例議会で一般質問を行った中期的な目標数値KPIの確認ということで御質問させていただきます。6月の定例会では、町長より中期目標設定について前向きな、肯定的な発言はいただきました。これから設定のほうを問い合わせいたします3つの項目は、町の活性化への直結した外貨獲得の事業であり、外貨獲得というのは町外からのお金を町に誘引するという事業であり、KPI設定、また、KGIも重要な項目であります。

まず1点目、訪日外国人観光客宿泊数の目標数値のほうをお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。外国人観光客の入国が2万人から5万人へと現在、日本に段階的に拡大しつつあります。しかし、いまだコロナ終息の途上であるという現状で、具体的な数値目標の設定を行うには時期尚早と考えております。今後のコロナ終息、入国緩和の状況をしっかり把握しながら目標値を設定していきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 確かにまだ国境のほうが開く開くといいながら、限定的なオープン状況であるのは認識をしております。それで、町としての6年までのところはペンディングということなんですけども、KGI、いわゆる最終目標、そういった

ところは設定されていますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在のところ、設定をいたしておりません。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） まず、基本的に目標数値というのは事業推進の源でありまして、仕事におけるゴールを定め、達成するために成し遂げるための指標になります。これに対して、政府も2030年に6,000万人という外国人観光客の目標を定めております。これがないというのは非常に懸念があると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この目標設定には、やはりコロナの終息というのが重要だと考えております。1年で終息すると思われていたのですが、3年続いているというふうな現状の中で、目標設定が極めて難しいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私、申し上げているのは、政府と同じように、2030年の目標はないかということで聞いております。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の御指摘のとおり、長期的な目標、これは当然設定する必要があると考えておりますので、早急に設定目標については2030年設定を考えていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 短期的な目標は分かっているつもりです。ただ、長期的なところ、2030年までコロナが続くと思えませんし、政府が6,000万人と目標を設定している以上、町としても長期的な目標として、中期はもう要りません、長期の目標としてKGIを設定いただくようお願いしたいと思っておりますが、いつまでにできますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 次の議会には間に合うようにしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ありがとうございます。じゃあ、12月定例会でお示しいただくということで、担当課のほうと調整いただき、2030年のすばらしいKGIの設定をしていただければということで期待してお待ちをしております。町長が納得いただく数字ということで、ぜひ設定いただければというふうに思います。非常にこの辺りは新規の経済効果を生む一つの要素だと思っておりますので、この辺りが観光業に対しての新規顧客の重要ターゲットであると思っておりますが、こういったところは国内のところのターゲットも同時に設定していただきたいと思いますけれども、その辺りはまたよろしく願いいたします。

続いて、2点目、ワーケーションによる有償招待モニター、要するに無料で招待する方以外の宿泊数の目標設定、こちらをお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、ワーケーション利用者の実数の把握の方法について、各観光協会と協議を進めております。今後、関係機関の協力を得ながら、まず実数を把握する仕組みを構築し、その上で目標値を設定していきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） これについての指標は今やっているということなんですけども、これの最終目標数値、これはございますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほどの外国人と一緒に、現在は目標値を持っておりません。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 町長を通じて担当課に私、申し上げているつもりなんですけども、12月定例会でこの数字示していただけますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そのようにしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ありがとうございます。それでは、12月、期待を持ってお待ちしております。

この補助金をもらっている事業、大きな投資をしております。目標設定自体がないのはおかしい事業になります。補助金を手を挙げたならば、目標設定は不可欠であり、責任を持ってその目標を目指すべきというふうに思っております。なお、有償な誘客が見込めない、望めないのであれば、来年からの新規の投資はすべきでないというふうに思っておりますので、この辺りも12月の定例会でぜひお願いしたいと思います。

続いて、ふるさと納税の目標をお聞きしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今年度は一応3億円という目標を掲げております。年度ごとに1億円ずつ増やしていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ちょっと私の設定とは1億円ちょっと違うんですけども、3億円はいいとして、例えば来年に5億円、6年に6億円というような設定はできませんでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今年度3億円、6年度が6億円ですね。ちょっと計算が、来年度が4億円、再来年度、6年度が5億円、そういった目標でいきたいと思っております。6年度が5億円であります。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今年度の3億円というのも、マクロで見ると十分な目標とは言えないというふうに思っています。後ほどまたふるさと納税の件でお伝えいたしますが、市場は伸びています。ただし、それに伴った推進ができていないというのが新温泉町の現状であります。一旦、3億、4億、5億円ということで承っておきます。

最終ゴール目標は、町長が言っていた10億円はいく能力があるということで、10億円を最終目標ということで設定いただいてよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 10億円は、キャパはいけるという具合に考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今もし到達年次の目標感が町長におありであれば、共有いただいていいですか。いつまでに10億円がいけるのではないかとこのころがあれば、共有させてください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和10年を目標にやっていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、ふるさと納税の件はまた後ほど触れますので、一旦この辺りは、今承った3億、4億、5億円で、令和10年に10億円ということで、令和の年次に沿って1億ずつ上がっていくということで理解をいたします。こちらはもう12月定例会でお伝えいただかなくて結構ですので、1番と2番のほうは、また12月定例会での御回答をお待ちしております。

それでは、ここで一旦切らせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。昼食休憩です。13時まで休憩いたします。

午前11時56分休憩

午後 0時58分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じ、再開いたします。

2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、続けさせていただきます。

先ほどの目標設定なんですけども、言わずもがななんですけども、たやすい目標であるとチャレンジしない、努力しない目標になります。到達の可能性の高い目標、もしくはいけるかもしれない目標ということで設定をしてもらいたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

続いて、2番目の項目に移ります。町の活性化に寄与する懸案事業の進捗状況の確認ということで、まず1点目、浜坂サンビーチを活用したアウトドア型ワーケーション、

ワーク・プラス・バケーションの進捗状況はどうでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ワークーションという事業の性格から、浜坂サンビーチはびっ
たりのスペース、そう考えております。一方で、現在、国立公園内というふうなことが
ありまして、非常に環境省の制約があるということもあるようであります。特に建築物
の増築等は現状では難しいと聞いております。まず、そういうことでできるところから、
環境整備の中で、W i - F i のまず整備から取り組んでいきたいと考えております。そ
ういった中で、次なるワークーションのスペースとして整備ができるか検討をしていき
たいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今、国立公園だからということで話が出たんですけども、
私、この間、岩美の国立公園の保護官に会ってまいりました。しっかりとした計画があ
れば、木を伐採してもいいし、そういった、例えばグランピングもしてもいいというこ
とで話承ってます。ですので、商工観光課のほうできっちりとした、要するに利用計画。
国立公園なので遊びに来てもらうことを取り組みたいというふうに岩美町の保護官は言
ってます。ですので、その辺りは利用計画、要するに事業計画が必要になりますので、
その辺りはそれを作って持って行っていただければ納得いただけると思っておりますので、よ
ろしくお願いいたします。

W i - F i の投資ということでいろいろやってるということは聞いておりますが、キ
ャンピング企画というのは、いわゆる民泊と違って、旅館や民宿と競合することも少な
い形態になります。並びにそれが誘客できると、スーパーとか、温泉利用とか、消費面
で経済効果があると認識しております。その辺りのもう一度企画に対しての意欲をお願
いできますでしょうか。（発言する者あり）

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 環境省がちゃんとした具体的な事業計画を持っていけば、
多分認めてくれるであろうということと、それと、キャンピング企画は民宿とか旅館と
競合しない。要するにキャンプを受け入れることで民宿のお客さんが減ったりしない
というところもあるので、もう一度意欲のほうを、サンビーチでやるワークーションに対
しての意欲をお願いしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この場所といい、最適なロケーションになっております。先日
も、これまでから浜坂観光協会からはこのサンビーチのキャンプ場における車の駐車場
の舗装、こういったものも整備の一環として聞いております。それからW i - F i も聞
いておりました。そういった中で、実は先日、県民局の懇話会がありまして、環境省の
所管とするエリア内における舗装などの要望も出しておきました。そういったことで、
今、議員からしっかりした計画ということの御意見もあります。内部で改めて検討しま

して、将来の計画性をきっちりと持った上で、改めてワーケーションの施設として活用ができないか、検討をしてみたいです。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ですので、このサンビーチでワーケーションをやるとなると、ワーク・プラス・バケーションになります。私は特に課題解決を否定するわけではなくて、温泉地域は課題解決、浜坂地区はバケーションということでやればよいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） どちらも必要だと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、よろしく願いいたします。先ほどのワーケーションの数字の目標のほうも期待してお待ちしますので、そちらが課題解決だというふうに思っている。これは課題解決の事業の目標数値ということになりますので、また、サンビーチのほうの進捗も含めて。長い間の懸案事項になっていると思いますので、その辺りはよろしく願いいたします。

続いて2番目、ふるさと納税の前年比、先ほども出ましたけども、それに対する増加対策のほうもお伺いしました。ふるさと納税の増加に対する意欲、もう一度、町長、このふるさと納税、町がどう期待しているか、これによって得たふるさとの寄附金、そういったところをどういうふうに生かしていきたいか、もう一度表明をお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと納税のメリットは、これまでからお話ししておるように、自主財源、地域の経済面、事業面の活性化、地域の特徴をPRすることで観光客など誘致にも大きな成果があると考えております。基本的には、やはり町の持っている力、これをふるさと納税にきっちりと反映していくことが大事だと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 町のいろいろやる施策の中には、守るものと攻めるものがあると思っています。まさにこのふるさと納税というのは、頑張れば頑張る分だけ、その原資が増えて、ぜひ攻める政策に使っていただきたいというふうに。要するに、町を活性化するために打って出るという原資として使っていただきたいというふうに思っています。原因分析、いろいろ、業者が増えないとかもろもろ言われましたけども、そのための営業、要するに業者を増やすための営業行為、そういったことはできているのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 増やすための施策ということでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） PR、営業、あまりしてないと思っておりますが、私は極力タ

方、夜、電話をかけて、PRにつながるというか、取りあえずはお礼と、それから次のお願いを兼ねて、できるだけたくさんしておるとというのが実態であります。商工観光課がPRの担当ということになっておりますけど、そこはまだまだ力不足だと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 反省のところでありましたけども、提供する業者を増やしていくということが大事だということは言ってたんですけども、これは誰がやっていくんでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） その部分は総務課が担当をいたしております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） じゃあ、業者を増やす役割は総務課ということによろしいですかね。中井課長、いいですか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） サイトを運営する業者は総務課、それから商品などを提供していただける事業者は商工観光課、こういうすみ分けをしております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） もう一度確認です。じゃあ、業者を増やす、今22業者でしたっけ、が例えば30とか40っていう業者、要するに物を提供する、業者を増やす役割は商工観光課ということでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 商工観光課であります。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） その業者を増やすに当たっての、非常に重要な項目だと思うんですけども、その課題は認識されていらっしゃるでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 課題は、例えばそれぞれの業種によって課題があります。例えば牛肉、但馬牛の場合は要望に応え切れないというふうな側面があります。それから、漁業の場合、例えばカニでしたら、季節によって単価が、上下変動が非常に厳しい、特にカニなどは上下の幅が大変厳しい。それから、農産物の場合にしても、数がそろわない時期がある、そういうふうなこと、それぞれに課題はありますが、何ていいますか、地域で力を持って、製造業者、製造されている、例えば土産物の業者があるわけですけど、そういったところの土産であるとか、機械、製造会社があるわけですけど、そういったところの、何ていいますか、商品提供の商品アイテム、それから商品の、何ていいますか、単価が小さいとか、それから商品がすぐそろわないとか、それぞれの事業所において課題があります。例えば、レコード針なんかにしても何百種類もあって、一定の、

特定の、たくさん汎用性のあるレコード針もあるんですけど、なかなか対応が難しいとか、非常に難しい面があるということでもあります。そういった面を、やはりどうしたら解決できるか、そこに力を入れて、共に事業者と担当、役場が協力してその課題を解決して、ふるさと納税に出品をしていただく、その努力がもっと必要かなと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私は1点、入り口のところで重要なところが抜けていると思っていて、浜坂の郷が窓口をしてやってるんですけども、さとふるですよ、たしか、さとふるのほうに、もうこれで入力してくださいということで渡されます。ただし、その渡された内容については、多分ITに詳しくないと駄目な作業があったりとか、それとか、宿泊だったら宿泊条件とか、宿泊規定とか、そういったところを入力しないと駄目な項目があったりとかして、その画面見た段階で断念する業者はいると思います。そのところのサポートが私、必要と思っているんですけども、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 出品するための、例えばパソコンの技術であるとか、商品資料、ふるさと納税の出品する商品を入れ替えるときの支援であるとか、そういった点の不慣れな方が極めて多いということで、したくてもできないという、そういう方もたくさんおるということを聞いておりますので、そういったところの支援を役場のほうでやっていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私もそこはそう思いますので、ぜひ浜坂の郷ができるかどうか、多分できないと言うと思いますが、その辺りをしっかり体制を取って、入力サポート、その辺りはぜひお願いしていただければもっと伸びるんじゃないかというふうに思っていますので、期待しております。

ちなみに、但馬の中で豊岡市が断トツに多いのは分かっていることだと思うんですけども、養父市とか朝来市の状況を把握していらっしゃいますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 養父市、朝来市においては、確認を取っておりませんが、隣の香美町では一応、確認を取りました。7月末現在で前年の1.2倍というふうなこと、それから、豊岡市においては公表できないということでありました。そんな状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 福井課長、どうでしょうか。養父市とか御存じですか、朝来市とか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当課長に答えていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） 把握しておりません。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それが問題だと思います。申し上げますと、香美町は先ほど申し上げたとおり、隣接してて、意識はしてると思います。養父市、ここは神戸牛と但馬牛と香住ガニ、これを、香住ガニをなぜか売ってます。2021年、4億円です。2019年、これは5億4,400万円を集めてます。もう断トツに多分違います。朝来市、これも但馬牛、神戸ビーフ、神戸ビーフという名前を使っていますし、ペットフードの鹿肉も使っています。ここは2021年、昨年度4.37億円、4億3,700万円、2019年は5億3,000万円をやっています。豊岡市はというと、2018年が1億8,000万円、2021年度は何と11億円まで豊岡市は伸びています。要は但馬では最下位が新温泉町ということになりますが、その辺りを現状を把握いただいて、こндаけ海産物とか名産品が多い地域が、なぜそんな位置にいるかということをごひ叱咤激励していただいて、伸ばす計画をしてください。よろしく願いいたします。

並びに、ふるさと納税のもう一つ、企業版ふるさと納税の拡大に対して、これに対するの意欲、それと課題解決のプロジェクト立案、これが必要なんですけども、その進捗はいかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企業版ふるさと納税制度は、国の認定を受けた地方公共団体が地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合、最高で約9割近い控除ができるという、そういう制度であります。本町ではこの課題解決プロジェクト立案等については、あらゆるPR活動の中で企業版ふるさと納税を前向きに検討していただける企業等があった場合、寄附見込額等を勘案し、事業規模、それから事業時期、財源等を含めた事業内容を精査し、当該事業についての国の認定を受けて推進したいと考えております。そんな状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） この企業版ふるさと納税については、町のプロジェクトの立案がない限りは、他町からの多額な納税は望めません。昨年100万円、今年50万円の岩美町の企業については、善意で行っていただいているというところでありますので、プロジェクト立案というのがない限りは、課題感が外に出ませんし、その辺りに寄附しようという企業も寄附しようがないという状況になります。

これは総務課のmatterでよろしいのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これにおいては企画課が担当をやっております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、企画課のほうで今、進捗はどんな感じでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企画課長に答えていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 水田企画課長。

○企画課長（水田 賢治君） 当町におきましては、地域再生計画を上げておきまして、4つの大きな包括的な事業を組んでおります。1つは、町を支える産業振興の事業、2つ目として町でもてなす交流拡大事業、それから3つ目としまして町が見守る若者の未来事業、4つ目としまして町でゆったり安心暮らし事業ということで、以前は各単独の事業ごとに寄附をいただくような政策でありましたけども、なかなかこれが難しい、事業完了後でないと寄附が受けられないとか、そういった政策の問題点がありまして、寄附が少ない状況が続いたことから、こういう包括的な大きな柱で国の承認を得まして、各町が実施をしております事業にその寄附を充てていくという形に変わってきております。ですので、この事業に寄附をいただきたいという形ではなくて、事業者のほうで町に寄附をしたいという行為をいただきながら、当町が行います事業の中身に沿った、寄附者の意向に沿ったものと組み合わせながらこの寄附をいただくという形に変わってきておりますので、今は寄附をしたいという事業者を待っているという形でございます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） こちらから攻めていくに当たって、具体的なプロジェクトは、私はあったほうがいいというふうには思っています。

企業版ふるさと納税の先日数字が発表されましたけども、令和3年度の状況を把握されていますか。全国的な規模でどういう状況か把握されていますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企画課長がお答えします。

○議長（宮本 泰男君） 水田企画課長。

○企画課長（水田 賢治君） 大変申し訳ありません。ちょっと全国的なものまでは把握はいたしておりませんが、県下であれば把握はいたしております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 時代のトレンドがここでは読み取れるんですけども、3年度の寄附件数、全国ですけども4,922件、対前年プラス2,249件、令和元年度比でプラス3,600件、要するにこの2年でほぼ全てが、企業が寄附しているという状況です。寄附額が226億円。一般的な返礼品を送る8,000億円の市場にはまだ到底届いてないんですけども、対前年でプラス110億円が伸びています。このお金というのは、全額が寄附額になるので、返礼品の必要なふるさと納税が半額使えるのとは全く違って、全額が使える寄附金になります。

1位が静岡県の裾野市で、17億円を獲得してます。何と3位に、私もちょっと目を

疑ったんですけど、徳島県の神山町が入ってしまして、この件は御存じないですよ。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私は存じておりませんが、課長にも確認取ります。

○議長（宮本 泰男君） 水田企画課長。

○企画課長（水田 賢治君） 大変申し訳ありませんが、把握はいたしておりません。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ここも8月中旬に国でレポートが出されていますので、ぜひ確認ください。徳島県の神山町、これ人口5,113人の町です。ここが企業版ふるさと納税、去年の実績が10億円です。令和2年が幾らかっていうと、2億円です。これは子供に対する支援をしていこうということを町のホームページでうたってます。そこに対して企業が、ちょっとこれ、ホームページ上であれかどうか、あれなんですけども、5社っていうふうに書いていて、5社が10億円払うかなっていうことはあるんですけども、一度ヒアリングをされてもいいんじゃないでしょうか。そういったところから多分糸口が見つかるんじゃないかなというふうに思います。

寄附を受けた自治体なんですけども、ちなみに956自治体が去年、寄附を受けてます。それが対前年度比が180%ということで、その中で北海道が39億円ということで、断トツに高いです。兵庫県はと見ると3億円。要するに、県の意識が薄いんですね。だから、県の言うことを待ってても、これは始まらないと思いますので、自ら師としてやっていかないと駄目だというふうに思っています。プロジェクトは地域産業振興とか観光振興、農林水産振興に使われるということで、まさに新温泉町にうってつけのふるさと納税の制度だと思ってます。そこで課題解決が具体的なものとして企業にぶつけていくと、それを寄附してくれる企業が増えるかもしれないということを思っていますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員からいいお話をお聞きいたしました。やはり全体像、もっともっと先進地があるというお話でありますけど、もっと勉強する必要があるなど、内に籠もってはいはなかなかいろんな情報も入ってきませんし、改めて他町の取組の実態を勉強させていただきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 並びに、この企業の寄附には人材派遣型というのがあります。これは何かというと、人を企業が派遣することによって、それが企業版ふるさと納税として加算されるというものです。ですので、1,000万円年収がある人をほかの企業から受け入れたとしても、それに対して翌年900万円の法人税の免除が、企業が受けられます。ということは、100万円で市と関係が持てるということになると、例えば観光なり農林水産なり、そういったところで人を受け入れて、プロフェッショナルを受け入れて、町に外から見たいろんな新しいものを生み出すというところもやってい

けると思いますので、ぜひそこは活用ください。人材派遣型っていいと思いますので、よろしくをお願いします。

並びに、今みたいな各課をまたぐ、横串でまたぐ事業になりますと、担当を一つに決めたほうが、私が今質問した中でも企画課、商工観光課、総務課が一部絡んでというところになりますので、ここは一般のふるさと納税から企業版含めて、担当を1人、2人決めて、専門特化したほうがいいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状、2課にまたがっておりますし、企業版を入れると3課というふうな、そういう実態があります。議員御指摘のとおり、やはり一本化で推進を図っていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 一つのつるを引っ張っていくと、いろんなものが引っかかって出てくるので、これはもう絶対に1人、2人に特化して、深く振興したほうがいいと思いますので、ぜひそこは早急にやっていただいて、今年の数値にも直結できるかもしれませんので、よろしく願いいたします。これでふるさと納税は終わらせていただきます。

4点目、地域包括システムの広域医療連携を基盤とした町としてのビジョンは確立できているか。その中の位置づけとして、浜坂病院の目標の姿と赤字解消に向けた将来像はできているかということで御質問させていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この新温泉町では、令和2年度第8期新温泉町高齢者保健福祉計画と新温泉町介護保険事業計画を策定しております。その中で在宅医療、介護連携の推進について事業展開をいたしております。医療と介護の両方を必要とする方が住み慣れた地域で自分らしく生活を続けることができるよう、医師会、歯科医師会、薬剤師会等、地域の医療、介護の関係機関のネットワークを推進し、包括的かつ継続的な在宅医療、介護を一体的に提供できる体制づくりを現在進めておる状況であります。さらに、この在宅医療、介護連携を推進するため、地域ケア会議や美方郡在宅医療介護連携推進事業を実施し、保健所を中心とし、但馬圏域内の市町連携会議、さらには鳥取県東部の麒麟のまち圏域との連携事業に参画いたしております。ビジョンの確立という状況であります。今のお話が現状であります。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今定例会でいろんな決算が出てまいりますけども、お金の表上では浜坂病院の赤字は約1.5億円の赤字が数字上では読み取れます。これは本当に近い将来に向けて徐々に減らしていかないと駄目だと思うんですけども、10年先、20年先に向けた浜坂病院の姿、この辺りは町長、いかがでしょうか。それをまた、今の病院長と話されたことがありますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜坂病院の検討委員会、それから新たなビジョン策定を現在検討中であります。浜坂病院の本来の姿、従来はそれぞれの診療科があって、大半の診療科はあったわけですけど、今は総合診療科、それから整形外科、それから耳鼻咽喉科、それから眼科、こういった状況であります。大きな事業の中で、何よりも地域の現状に沿った浜坂病院の在り方をどう構築するかというのが大きな課題だと考えております。

この4年間、私も町長就任以来、浜坂病院の経営の見直し、在り方、特に、非常に赤字があったわけですけど、それにどう対応するか、それは地域の、例えば鳥取中央病院との連携、鳥取市立病院との連携、こういった地域の、特に鳥取の大病院との連携の中で、手術をされた後の回復に向けた治療をする病院として、浜坂病院が現在、機能をいたしておるようであります。そういう中で、経営も少しずつ改善をしてきた、こういう現状があります。高齢者、それから術後の診察、診療、こういう面で浜坂病院の役割がある程度地域に定着をしてきたな、そのように考えております。そういう方向でもって、まだまだ赤字解消とはなっていないんですけど、地域の利用者をやっぱり増やしていただいて、経営改善、それから、地域になくってはならない病院として存在を続けていけるようやっていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私も徐々に、赤字はしょうがないというふうに思っていますが、徐々に減らすべきというふうには思っています。今年の決算の中でも読み取れるところがありまして、病院事業と介護老人保健施設事業は赤字です。ただし、居宅介護支援事業、これは黒字になっています。私はここにヒントもあるかなと思ってみて、やはり在宅というキーワードが浜坂病院の将来的な姿じゃないかなと思うんですけども、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員がおっしゃるとおりで、現在、浜坂病院は在宅医療、つまり、出向く医療ということで力を入れております。ただ、まだ実績がなかなか上がっていないという現状がありますけど、寝たきりの方、家で治療されている方も増えつつありますので、そういった需要をきっちりと在宅医療の制度の中で生かしていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 病院の皆さんがいろいろ方向性を示すに当たって、そういったキーワードというのが必要になると思いますので、ぜひそういったところは町長の口から明言いただいて、もう遠い、20年先かもしれないけども、在宅医療、在宅介護、在宅リハビリ、そういったところに特化して、町民と寄り添う病院を目指すというところを明言いただければ、非常に納得いって、みんなその方向に行くんじゃないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続いて、3点目、町施設の直営施設の課題とビジョンということでお聞きします。まず、これは夢公社の決算の書類も含めて質問のほうを書かせていただいていますので、よろしくお願いいたします。

まず、リフレッシュパークゆむらです。1,611万円の売上げしかない施設なんですけども、指定管理料、いわゆる税金として2,668万円の拠出がされています。これはいかなものかということで、集客が、逆に売上げが1,611万円が上がる、劇的に増加する将来像を描けているかということで、よろしくお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュパークも築後30年以上経過いたしました。そういった中で、老朽化も激しい、一方で、利用の人数も減りつつある、こういう状況があります。議員御指摘のとおり、やはり将来像をきちりと持つことが必要だと考えております。この第三セクターとしてのリフレッシュパークの在り方については、株式会社夢公社が運営いたしております、51%が町出資ということになっておりますので、役員会の中で、将来ビジョンをきちりと持つ中で、運営が順調にいくように、副町長が専務という立場もありますので、経営の改善には将来像をきちり描いていけるようにやっていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 30年前とか、そういったときの夢千代ブームもあったと思いますが、非常に潤ったことは聞いております。これは過去の栄光だと思ってまして、今後どうかっていうところは、具体的なところはお持ちでしょうか。これは副町長でもいいんですけども、何をキーワードにこれからやっていきたいか。それで、この施設というのは観光客を誘致するための施設だと私は思っているんですけども、それが間違いないかどうか、よろしくお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 夢公社の今後、経営ということと、リフレッシュパークゆむらの今後の在り方ということでございます。今、収入と支出の関係を言われたわけでございますが、やはり地域の振興と、観光客を今、議員が集めるというふうなことを言われました。もちろん観光地としての地域の中でリフレッシュパークがどういう役割を果たしていくかということにつきましては、創立当初から30年経過した中で、社会情勢も変わってきているということでございますので、今年度につきましては、リフレッシュパークゆむらを含めた町営の温泉施設それぞれの位置づけ、ターゲット、設定すべき料金等、それらについてあるべき方向性を見いだしていくための検討を進めていくということで、現在そのような方向でございますので、今後の地域振興に合った形での、どういう形になるかというところを検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 地域振興で外からお客さん集める比率がどのくらいかと

ということと、町内の健康増進、健康増進というか、リフレッシュパークなどで温泉を活用した何々というような項目になると思うんですけども、そういったところは、ぜひどっちが比重があれなのかっていうことはお伝えいただければと思います。

さらに、夢公社の内部留保、貯金は1億円あるというふうに思ってます。1億円あるというふうに出ています。そのまま経営権を渡したらいいんじゃないかなと思うんですけども、行き過ぎかもしれませんが、そういった非常に健全な会社であるということも含めて、ここまでの拋出が必要かどうかということも含めて、コメントいただけますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 私も夢公社の専務ということと、もう一つ、民間の取締役もしております、2つの会社を見ているわけですが、今、議員御指摘のように、夢公社、内部留保1億円ということであります。非常に健全な経営状況でございますので、それらを今後の、先ほど言いました、社会情勢変わってきている中で、それをどう、先ほど言いましたような検討を進めていくかということにつきましては、その内部留保1億円と関係した中で検討をしていく必要があるというふうに思ってます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 非常にお金持ちの会社に委託してる。そこに毎年6,000万円、税金から指定管理料ということが出てるという現実、数字上では明らかに出てくるわけですので、そういったところも踏まえた上で、今後の方向性、これ非常に重要だと思いますので、特にリフレッシュパーク、老朽化が進んで、何か3年か4年後には大幅な改修が必要ということも聞いてますし、それまでに方向づけは出さないと駄目だというふうな。ここにまた2億、3億円突っ込んで、お客さん来ないってことは、ちょっとあり得ないと思いますので、ここは町の税金を使っての事業ということで、ぜひ副町長の英断というか、まず目玉がないと駄目だと私、思ってますので、ぜひよろしくをお願いします。最後、ちょっとコメントだけお願いします。

○議長（宮本 泰男君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 今御指摘のように、非常に老朽化をしておりますので、こういったターゲットでしていくかということについて、今後の施設というものもそれに伴って修繕の方法ということもあろうかと思っておりますので、その辺を十分検討した中で進めていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今後に期待しております。

並びに、続いて2番、湯村温泉の駐車場なんですけども、収入を見ますと、今283万円しか売上げが上がってません。なのに、382万円の運営管理料、これが拋出されてます。いわゆる歳入に対して歳出のほうが多いという状況になってます。これをぱっと見ると、もう無料にすればいいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この湯村温泉街においては、町なかの道路が狭いということもあり、観光振興の観点から外来者向け駐車場の確保が重要だと考えて、現在に至っております。売上げと管理料のバランスのみを考えて無料化すると、住民利用が増加し、観光客向け駐車場の確保ができなくなるというリスクがあります。それから、さらに、入湯税収入等、観光が地域に果たす役割が大きいものがあるという認識の上で、赤字であっても継続して管理する必要があると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） そういった理由でということで、私も初めて聞きましたので、承っておきます。

続いて、3番目、健康公園に関してです。町民の健康増進が、本当にここは逆にリフレッシュとは違ってメインの施設だということは理解できるんですけども、1年間の売上げ、116万円の売上げに対して1,820万円の管理料、税金の拠出がされているということになってます。冬の時期が使えないということを除くと、平均15万円程度の利用料収入しか1か月当たりないということなんですけども、町外の誘客とかで増収する販促策というのは十分に練られているんでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これは本来、町民の健康施設として遊びに利用したり、健康に利用したり、それからグラウンドゴルフ、ミニゴルフを造ったりという中で今日に至っております。ただ、使用料だけを見ますと、確かに大赤字という状況ではあるんですけど、これをもともと直営から夢公社に指定管理をしたわけなんですけど、これによって、町の直営のときと比べると、大幅に運営費が下がったというのが実態であります。そういう経過の中で今日に至っておりますので、利用料のみだけでは判断はできにくいかな、そう考えております。実は、この健康公園にはドームもあり、体育館もあり、それから食事をできるコーナーもあって、合併までは非常ににぎわっておったんですけど、非常に合併によって利用実態が減少したという、そういうこともあります。ただ、議員御指摘のように、この増収する、特に町外誘客で増収する、そういう販促策は十分考えて、実行する必要があると思っております。

それから、ドームがあるんですけど、ドームの利用が大体、非常に利用率が高くて、予約がなかなかできない、そういう月もあるようでありますので、担当に聞きますと、年間8割ぐらいは予約で埋まるというふうなことも聞いております。非常に天候に左右されない。一方で利用料が非常にこなれた料金で利用できるというふうなことで、大阪のほうからの来客も多いということを聞いております。そのようなことで、現状、続けていければと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私も見たんですけども、非常にすばらしい施設で、ドー

ムもあるので、雨に左右されることもない施設だとは当然思っています。グラウンドもあるしということで、まさに生涯教育課がやっているスポーツツーリズムに活用すればいけるんじゃないかというふうに思いました。湯村温泉の旅館と一緒にあって、例えば企業の運動会を誘致するとか、そういったところが考えられるんじゃないかなというふうに、私なりに思いました。ですので、町民の健康増進だけではなくて、外からどう引っ張ってくるか、それが基本的にはまた交流人口の拡大とかそういったところにも当然寄与してくるわけなので、こんなすばらしい施設をほっといて、口を開けて待っているということではなくて、打って出るというところも、商品化をしていくというところも重要じゃないかなと思っていますので、ぜひそこはお考えください。いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 非常にすばらしい施設ではあるんですけど、利用の率、利用実態という点では本当にまだ残念ながら寂しい状況があると思いますので、改めて議員のお知恵もいただきながら、利用推進に頑張っていきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひすばらしい施設なので、よろしくお願いします。

続いて、4点目、ジオパーク館です。そもそもなんですけど、ジオパーク館の役割をもう一度改めてお聞きしてよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ジオパークができて、今年で12年目に入ったと思います。実は、当時、合併した当初、馬場町長時代にこのジオパーク構想が生まれました。馬場町長のおかげでこの山陰海岸ジオパークが認定を受けた、そういう状況の中、スタートは浜坂の海岸、ジオパーク館がまずスタートしたというふうなことで、非常に役割としては大きなものがあると思っております。ですから、このジオパークの活用をもっともっとすることによって、新温泉のPRにもつなげていきたいという具合に考えております。現状12年目になったんですけど、施設の在り方について、運営方法について、いろんな御意見、今、伺っております。こうしたらいい、ああしたらいいというふうな意見も聞いておりますので、議員の皆様方からも御意見をいただいて、もっともっと利活用をしていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 発祥の地が浜坂ということもあって、それがあっていうことは十分分かりました。いわゆる広報とか普及の意味であれを建てて、それをPRしているというところだとは思いますが、反面、町から1,900万円ほどの一般財源が出ているかと思えます。片や、岩美町にあるジオパークの説明をしている博物館というか、館があります。海と自然の何とか館というのがあります。そこは県立になっています。要するに県が拠出している施設になっています。そろそろ町から県に移譲してもいいんじゃないでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大変いいアイデアだと思います。ちょっと一回相談してみます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） よろしくお願ひします。ぜひ、やるんなら県に移譲していただいて、県の誘客の柱にもなっているはずなので、その辺りはぜひ、県民局を通じてなのか、来年度の予算に組み込んでもらうような動きを、今ならまだ遅くないと思いますので、ぜひお願ひしたいと思います。

それと、あとは、その反面、非常に絶好のロケーションではあります。そこに海に見える露天風呂とか、例えば海で体を冷やすサウナをつけたりとか、何かいろんなアイデアが出てきそうな、あと、ワーケーションのスポットにもなると思いますし、そういったところの利用もどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ジオパークの館内の利用方法につきましては、例えば2階にお風呂をしたらどうかとか、いろんなこれまでから御意見をいただいております。それから、若い人がもっともっと集まるようなカフェを造るとか、そんな意見も聞いております。議員の御意見、もっともだと思ひますので、今後の参考意見としてお聞きをしておきます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ意見出るだけじゃなくて、行動に移していただければと思ひますし、例えば県に移譲できなかつたら、もう用途を変えていくとかいうところを明言されてもいいんじゃないかなと思ひますが、これはまた検討いただければと思ひます。私はまず県に譲渡するのが一番だと思ひていますし、譲渡できないのであれば、町の資産なので、毎年1,900万円の税金を投入するのではなくて、別の稼げる施設に、あそこのロケーションはもう絶景なので、そういったところはぜひ考えていただければというふうに思ひます。今すぐには無理だと思ひますので、ぜひよろしくお願ひします。

続いて、ユートピア浜坂です。これは直営の施設ということなんですけども、現状では時代のニーズに選択されないという施設。指定管理も含めた、例えば町外事業者への支援を求めたり、そこに先ほど申し上げた企業版ふるさと納税のプロジェクトを絡ませて、施設を一新、活性化し、それを町外事業者へ指定管理を含めて支援をしてもらうというのはありと思ひますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ユートピア浜坂、昨年度、1億円以上の予算で大改修をいたしました。一方で、今年度はユートピア浜坂の運営予算が約4,000万円計上されております。使用料を見ますと、昨年度が約980万円が入浴などの使用料であります。そういった意味で、今、委員のほうから新たな指定管理をするとか、御提案をいただきました。これまでの施設の建設、運営に至る経過というものもありますので、そういった経

過を十分に検討しながら、そういった指定管理ができるのかどうかも含めて、今後の検討課題といたします。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 将来像というのは、本当に描いていただきたい施設であります。やはりただの銭湯ではないと思っていますし、どこを目指しているのかというところがちょっと分からない状況でもありますので、そういったところは、例えば今現状、9時で終わっているわけですよ。8時半までに入らないと入れないとかいうところになると、本当、プロ野球見ている人は入れないとかいうような人も聞いてます。ですので、10時までせめてやってほしいとか、そういったところ、あと、8月12日が何か休みだったっていう苦情も聞いてますし、お盆の真ただ中だったんですけども、そういったところも、やっぱり非常に民間の意識がちょっと薄いところもあるかなと思ったので、ぜひそのところはメスを入れていただいて、改正に向けて動いていただければというふうに思います。最後、ちょっとコメントをお願いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、ユートピア浜坂においては、コロナになってから利用時間を制限いたしております。このコロナの状況を見ながら、従来どおりの運営時間に見直しを図っていきたい、そのように思っておりますし、施設の在り方につきましても、先ほど申し上げたように、これまでの経過を十分に考えながら、管理の在り方、運営の在り方を検討していきます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、最後の項目に入らせていただきます。浜坂地区の小学校と認定こども園の統合についての将来ビジョンということになります。

小学校教育における少人数教育の長所は十分理解しているつもりです。ただ、何人が限界数と考えていますか、お答えください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この点につきましては、教育長のほうからお答えをさせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 少人数教育の長所を理解していただいているということで、大変ありがたいというか、本当にいろんな小規模の中でもいろいろ教育を進めてるところは理解していただいているということであれしく思っています。兵庫県のほうでも少子化に対応した教育の充実に向けて、小・中学校の適正規模と適正配置等というようなことが出ているわけですが、その資料にも限界数というようなことは出ておりません。非常に難しいところがあると思うんですけども、人数に応じた教育ってことは当然していかねばなりません。

ただ、本町としましても、以前に統廃合をした事実というのがありまして、温泉地域

の中で、熊谷小学校、春來小学校、温泉小学校が温泉小学校へ、また、そのときの熊谷小学校の全校児童が13人、それから春來小学校が10人というようなデータも残っております。平成24年には八田と奥八田が温泉小学校へ行ったというようなことで、その当時は八田小学校で21人、奥八田小学校が25人というような人数であったというふうな記録が残っております。

今現在、新温泉町のほうでも少子化が本当に進んでおりまして、大きな課題であるというふうに捉えております。大きな将来像をしっかりと見据えた中で、子供たちにとっての教育で、本当にいい教育が提供できると思いますか、そういったことをしっかりと見据えた上で検討していくべきことであるというふうに思っております。今現在、この段階で限界数ってということはちょっと申し上げられませんが、ちょっと控えさせていただきますけれども、将来的に、やはり令和10年になりますと、全校児童が40人を切る学校も3校出てまいりますし、小学校で、そういったことも踏まえて、児童数、しっかりと見極めた上でいろんなことを、やはり地域の皆様の理解、保護者の皆様の理解、しっかりとそういったところを丁寧にしていく必要があるということは考えております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私は、その限界数というのはあったほうが、地域の皆様にも理解いただけると思ってます。何をもって統合しないのか、何をもって統合するのかというところの感情論になってしまうと、何か数字のバーが私ないと思うんですね。その辺りいかがでしょうか。

○教育長（西村 松代君） 数字の。

○議員（2番 西村 龍平君） 数字のバーを持ったほうがいいんじゃないかということです。今の限界数ですね。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今年度、いろんな御意見も伺った中で、まちづくり懇談会の中でもいろいろと意見をいただいたといたしますか、全部の地域では出ませんでしたけれども、統合に向けての意見が出ました。地域の皆様の御意見、また保護者の方の御意見、そういったところでのちょっと相違もあるわけなんですけれども、そういったことも踏まえて、ある地域では、やはり展望といたしますか、この先のどういった展望を持っているのかというようなところを示すべきじゃないかというような御意見もいただいておりますので、数値的なところで、そこも検討に含めまして、今後、やはり将来的な展望をしっかりと見据えて、より多くの皆様の御意見を伺いながら、教育委員会の中でも教育委員の皆様と共に、もう現在もいろいろ議論もしておりますので、そういったことも踏まえながら、皆様にしっかりと理解していただく、行政一本ではなくって、しっかりと議論をしながら丁寧にとすることは思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 2番の項目にも絡むのでいきますけども、3月の定例会

で、私は小学校の統合における懸案事項は3点あるというふうに申し上げました。1つは地域の元気、これは地域の調整もここの中に入ってきます。要するに、キーワードは地域です。2つ目、子供への豊富な経験の提供、これはもう言わずもがなで、集団教育をした中で子供の経験ということになります。3つ目に費用、これは新設に当たっての費用ということになります。私は全く意見はぶれてませんで、3月の議会で申し上げたとおり、子供への豊富な経験の提供を第一に考えたいというふうに思っております。これは、多分教育長も町長もそうなんですけども、私たちが一番いい時代を生きてきているんですね、小学校のときは。もう浜坂小学校も5組ぐらいありましたし、その中で、3組だったかな、組は複数あって、やはりテストで一番になって目立ちたいとか、それとか、少年野球をやりたいとか、少年サッカーをしたいとか、それとか、運動会で同級生の徒競走で一番になりたいとかっていうことを私たちは思ってきたはずなんです。そういったところを、この統合をしないということで、それを奪っているというふうに私はちょっと見えてしまうのがなくて、その辺りを私は第一に考えたいというふうに答弁はさせていただきます。この点について、もう一度、今のお考え、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 議員のおっしゃったように、本当に体験で学ぶことって非常に大きいと思っています。机上で学ぶことも当然大事ですけども、やっぱり自分が体験していく、その場で生の体験をしていくということに大きな学びがあるというふうに考えています。

議員おっしゃったように、3点上げていただいたんですけども、新築の費用だとか、それからスクールバス、通学費の問題だとか、それから統廃合による教職員の減少だとか、環境の変化に伴う児童や保護者の不安や悩みだとか、児童の環境の変化による対応、学校のルールだとか、いろんなことがあるわけですけども、やっぱり子供の豊富な経験の提供というところで、今現在も少人数であっても、地域の中に出かけて行って、いろんな体験活動はしております。なので、集団の中でというくくりということ、多い人数の中でというお考えもよく分かりますし、その中でもいろんな工夫の中で体験活動はしております。その体験活動が大勢の人数でできないというようなことに対して、各県や国の事業を活用したり、いろんな本物に出会うような体験活動もしたりしております。本当にこういったことで、統廃合がどうのこうのっていうことではなくして、体験活動は非常に大事だと私自身は思っておりますので、そこは大事にしながら、しっかりと子供たちに、どこの市町にも負けないような体験活動はしっかりとしていきたいというふうに思っています。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 浜坂北小学校を中心と置いて、遠くて浜坂東小学校の5キロぐらいなんですね。西はそれ以内、南もそれ以内。要するに、今まで統合の議論があったほかの町を見ますと、旧町にこの小学校しかないのに、持っていかれたら町が壊

れるというところを、私、その条件は分かります。ただし、非常に近いところに隣接してその4つの小学校が、今の子供を優先できないのかっていうところがちょっと分からないので、もう一度その距離の問題と、今、浜坂東小学校で37人ですよ、1学年で2人の学年もあります。それと、もう一度お聞きしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 距離の問題も、やはりバス通に全員がなりますと、本当に距離の問題というのも大きな課題っていうか、あると思っております。まだ今5キロ圏内ということで、そういったことも踏まえながら、そのことも視野に入れて、今後検討が必要だと思っております。

今年度はまちづくり懇談会の御意見を伺ったわけなんですけれども、これからはやはり具体的に保護者の皆様の御意見を伺う、アンケートを取っていくとか、そういった作業に一步踏み出さないといけないというようなことは考えてもおりますし、意見を伺った中で、本当にぶれてはいけないのはやっぱり子供たちの教育、教育環境をどうつくっていくかっていうところを絶対ぶらせてはいけないと思っておりますので、そこを大事にしながら、丁寧に議論を重ねる中で方向性を見いだすことを考えていく必要もあるというふうに考えています。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今言っていたいただいたことを私もインプットしておきますし、子供が大事だということを1つ。2つ目に、アンケートを取ったらどうかっていうところは私も思います、ぜひ取っていただきたい。それと、子供を奪うというふうに言いますけども、朝出て行って、夕方帰ってきます。地域にはずっと寝泊まりしているわけなので、夏休み、春休み、冬休みは地域にずっとおります。ですので、スクールアワーの朝から夕方まではいませんけども、それ以外はいるわけなので、決して子供がいなくなる、地域からいなくなるわけではありませので、そこんところはよろしく願いいたします。ぜひアンケートのほう取っていただきたいと思います。再度、ちょっとお願いしたいと思いますが。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本年度、本年度っていいですか、新温泉町では、以前から申し上げておりますように、御理解もいただいていると思うんですけれども、コミュニティ・スクールを来年度には全校で開始をします。今現在、いずれ、いつかふるさとに、ここへ戻ってくる子供たちを、やはり今私たちは教育で種をしっかりとまいていくっていうことを大切にしたいと思っております。そのために、ふるさと教育ということを一本の核にしながら、子供たちを地域の中で育てる、そして、地域の皆様とともに育てる、そして、学校を核とした地域づくりというようなことで、議員もおっしゃっていただきましたけども、地域の活力にやっぱり子供たちってなると思っておりますので、そういったことを、学校教育だけではなくて、社会教育、それから家庭教育、地域の皆様による教

育、そういったことはみんなやはり子供たちを、将来を見据えて、将来子供たちが、今新温泉町の教育を受けた子供たちが、いずれ、いつか帰ってきてくれる、そういった教育をしっかりとしていきたいと思っております。やはり行政が一方的に絶対進めるものではないと思っておりますので、いろんな皆様の御意見を伺いながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 行政が一方的にということなんですけども、行政が引っ張っていくことも私は必要だと思っております。ですので、そこは、先ほど申し上げた、数字のバーというのは、私は客観的な部分も含めて必要だと思っておりますので、何人以下なら統合に踏み切るということをお願いしたいのですが、そのときに相互のフラストレーション、これは湧かないと思っておりますので、ぜひそこは早急に御検討ください。今年度中に、できたらそういったところも含めて検討いただければと思います。

最後に、私は、この小学校の統合が実現できれば、3つの小学校の校舎が空きます、そういった無償の広い敷地と校舎の存在したところに新しい統合のこども園、これを設置ができれば、この3点目の新設の費用が抑えられるというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今の件ですけれども、以前であれば、平成17年に夢が丘中学校が統廃合したときに、照来中学校を今の照来小学校に転用したというような事例もございます。そのときには大規模な改修が、対象となる子供が小さくなりますので、そういった改修はやっぱり必要であったというふうに聞いておりますし、当然それは必要だったと思っております。空いた小学校を認定こども園のというところですが、そういったことで考えますと、いろんな施設面でいえば、小学校にはない施設をしっかりと造っていかないといけないということがございますので、当然、トイレにしても、授乳室であったり、ほふく室であったりだとか、いろんなことが改修が必要に、大規模な改修が必要になると思います。そういったところで予算的なことを、費用が抑えられるかどうかというところは現時点ではちょっと分かりかねます。そういった御提案ということで受け止めさせていただいていきたいなというふうに思っております。

○議長（宮本 泰男君） 西村議員、残り時間が少なくなっております。

○議員（2番 西村 龍平君） その辺り、ぜひ、私もこれが通ると、すぐ通るとは思っておりませんし、私のあくまで、すごい熱望してる、これが一番妥当じゃないかなと思ってる結論です。ですので、その辺りは十分考慮に入れていただいて、当然避難台もあります、校舎が3階建てだったりとか、あと、浜坂東小学校には避難台もあります。避難についてのリスクはそれで減らせるわけです。それと、体育館があります。体育館があるこども園は私、見たことないと思うんですけども、そういったところもうたい文句になるんじゃないでしょうか。そういった形での、子供教育に関する小学校も含めた、やは

り具体的なビジョン、具体的な方向性、教育の方針を見せていただきましたけども、非常にきれいな言葉で、漠然としたところがあるので、こういったところはそういうところに具体的な部分で織り込んでいていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、コメントだけお願いします。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今いろいろ御意見を伺わせていただきました。やはり統合につきましても、何かの形を示すということも必要になってくるかと思えますし、地域の皆様の、本当に先ほどから議員からもいろいろ言っていておりますが、やっぱり地域の皆さんの思いだとかいろんなことがあるわけですので、そういったことも踏まえて、しっかりと進めていきたいというふうに考えています。しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

○議長（宮本 泰男君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） みんな注目してますので、ぜひよろしくお願いいたします。

私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） これで西村龍平君の質問を終わります。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。2時25分まで。

午後2時13分休憩

午後2時25分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、3番、岡坂遼太君の質問を許可いたします。

3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 岡坂遼太でございます。議長より許可をいただきましたので、通告に従い質問いたします。よろしくお願いいたします。

まず、質問事項第1で、人口問題と将来ビジョンについてでございます。

町長はこれまでの議論の中で、本町の人口問題に対して、増やすことに着目して発言されておられたかと思えます。広報しんおんせん4月号の「こちら町長室」では、人口を減らさない、逆に、増やすことに知恵と行動力を発揮することが政治の大きな役割と書いておられます。本町の総人口は毎年約2%下がっております。特に、合計特殊出生率の対象である15から49歳の女性人口は、毎年3%前後下がっております。分母が大きく減る状況では、多少出生率が改善した程度では人口増加に転じません。しかし、これまでの町長の考えに触れ、私自身も考えをフラットにしてみました。そこで、人口増加の策について前向きに検討いたしました。日本全体の人口が減少していく中で、長

期的ビジョンを持ってまちづくりを行うことは大切な視点ですので、どのようなお考えなのか伺いたく質問いたします。

まず先に、私の認識にずれがないかを御確認いたします。人口増加という話は、町の総人口の増加という認識でよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まちづくりの基本はやはり人であります。その人を増やすというのがまず大前提。人がなくては何も、事業もできませんし、新しい発想も生まれません、そういう視点で人口を増やす、これによって、具体的には地方交付税も増えていくというふうなこともありますし、波及効果はいろんなところに及んでいくと。人が増えれば住宅が増える、住宅が増えれば雇用が増える、仕事が増えることによって所得が上がる、そういった波及効果というものが当然出てくると、こういう視点であります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 改めて質問いたします。人口増加というのは総人口の増加を表すのでしょうか。今年の人口よりも来年の人口のほうが多いというふうな結果を求めての人口増加というふうな認識なのでしょうか。

○町長（西村 銀三君） ちょっともう一度。よう分からん。ちょっと聞こえにくいです。もう一度お願いします。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 「こちら町長室」の発言では、人口を減らさない、逆に増やすことというふうなことがありまして、人口を増やすというふうなことを言われておりますよね、これまで。その人口を増やすというのが、ゼロ歳からずっと上までの全ての人口を増やすと、総人口を増やすというふうな意味での発言なのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当然であります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） よかったです。では、人口を増やすために有効と言える策はお持ちでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これは難問であると、現状では、そう考えております。基本的にはやはり国の制度の在り方、子育て、こども家庭庁ができるわけですけど、こういった国の制度の在り方、それから、やはりそれによって子育て環境の充実、こういったものがないと現在の少子化がなかなか解決できないという具合に考えております。そういう意味で、子供が生まれたら社会全体で、親が育てるという視点と同時に、社会全体で将来を担う子供たちを育てるという、そういう視点が必要かなと、現在やっとな国も動き始めたな、そういう感じをしております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 町政を考える中で、人口を増やすというふうな発言がこれまであったわけなんですけれども、国の政策、もちろん影響はあると思いますけれども、国にかかわらず、日本が人口減少と言っている中で、町長は人口を増加させると言われていたので、人口を増やすために有効と言える策があると思うんですけれども、それはありますか。国にかかわらず、町でできる範囲で策をお考えということでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 政治っていいですか、人口減少をベースにしてまちづくりを考えるのか、それとも、増やすという、そういう意志を持って行政運営を図るのか、その考え方の違いであります。やはり我々の立場になったら、減らすから減らす方向で考えるのか、私はそれ、マイナス発想っていうんですけれど、そうじゃないと。やはり町の最高責任者としては、どうやって増やしていくか、こういう視点で事業を考えていく必要があると、前向きに捉えてやっていきたい、そういう思いです。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 大変理解いたします。減らすから減らすのマイナス発想をしないためにも人口を増やしていくという発想で考えておられるわけですよ。人口を増やすのが難しいという中で、増やすということを前提としながら議論するためにはしっかりとしたクリティカルな策があるということであれば、分からない状態で増やすという発言をしなげらうと続けると、何年もしていくと、非常に議論が迷走するといえますか、そういったことが考えられるわけなんですけれども、人口を増やすという発想をするために、その策が明確でなければ、私たちは改善も提案もできないと思うわけなんですけれども、策はないというところでよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大変失礼な質問だなと。なかったら、ここに立つことはできないと思っております。ちょっとあまりにも失礼だなと。ないというよりは、町の持っている力をどう生かして活性化につなげていくか、最終的には人口増、増えるような流れをつくっていくか、そういうことで、現在立ち上げているのがおんせん天国室、温泉を使ったまちづくり、こういうことでやっておりますし、同時に子供の子育て環境、こういうものに力を入れて、学校給食の半額対応であるとか、こういったことを議員の皆さんに理解をしていただいて、やっているというのが実態です。その実態を見ていただければ、策がないとか言えるはずはないと思います。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 申し訳ございません。

では、人口を増やすための策として行っている、検討されているのが、実施しているのがおんせん天国と子育て環境の充実というところでよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在はそういう状況ですけど、町の資産、海、山、温泉、この

3つを生かしてまちづくりを推進していきたい、こういう思いです。その核になるのが人であります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、おんせん天国、子育て環境、海、山、温泉等の町の資源を有効に活用できれば人口は増加できるという見込みであるというふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 増やすという、そういう意気込みでやるのが大事だと言っとるわけでありまして。増やすという、そういう、何ていいますか、足して2で割れば2分の1になるという、そういう発想ではありません。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） そうですね、予測としては、予測に上がってきますか、人口増加が。人口増加させるという意気込みは理解できます。では、策を打って、人口増加していくという見込みはありますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 年間、町内で高校の卒業の8割は一旦出ていかれるという現状がありますし、高齢者、年間約平均で230人、一方で、生まれるほうは昨年度が63人、こういう現状があります。そういった現状を認識の上でいろんな施策を打っていきたい、そう考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、おんせん天国、子育て環境等の施策によって人口が増加するというふうなところのエビデンスと申しますか、前例、参考になるようなものがあっての計画でしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） おんせん天国やいろいろな事業の積み重ねで人口が増えるような流れをつくっていききたい、おんせん天国したから何ぼ増えた、そういう簡単なまちづくりはできるはずはないと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 人口が増加している町というのが、2015年から2020年でどの程度あるのかは把握しておられるでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 兵庫県では、今年度はなかったという具合には考えております。ただ、唯一、明石市、西宮市だったかな、昨年度はたしか2か所ぐらい県内ではあったと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 明石市等、人口が大きく違ったり、環境、条件が異なる

地域の人口増加というのは参考になるものなのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 参考になる場合もありますし、ならない場合も当然あると。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、どういった場合に参考になると判断されるのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 事例を挙げということですけど、同じような人口規模、そして、都会から離れているとか、いろんな立地条件があると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） ちょっと調べまして、国勢調査の2015年から2020年で増加した市町村のリストがありまして、その中で、人口が3万人以下の市町村で増加したのが64あります。この人口増加している3万人以下の市町村のうち、中核都市、人口15から20万人以上の町から20キロ以上離れた市町村で増加しているのが18ありました。あるんだなと私自身は思いまして、この18の町村の全ての人口ビジョンに類する計画等を見させていただきました。すると、ほぼ全て、1950年、60年代ぐらいから増加傾向のある町になっております。また、ほとんどの場合、何かしらの理由があります、そこには。その理由というのは、子育て環境がいいだとか、町の資源をよく使ってまちづくりをしているといったものは一切ありませんでした。このことについて御見解をお伺いします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほど言ったように、温泉、つまり町の資源をどう使うか、そして、人を生かす、将来の町を担う子供たちの関係をきっちりと支えていく、そういう施策が大事だということで、先ほど言ったとおりであります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） そういった施策では人口増加に転じる決定打にはなっていないということが分かるんですけども、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 1年2年で施策の成果が出ると思っておりません。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、どの程度の期間を要するものなのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） それは分かりません。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 本町の人口ビジョンではシミュレーション3つありまして、いずれにしても人口増加することがないというシミュレーションで出しております。

どこか人口増加する町がビジョンにないかなというふうに調べていたんですけども、人口増加している町村ですら、10年後には人口減少に転じるというふうなものがほとんどでございました。その中で、人口増加に転じるシミュレーションを無理やりにでも出した町がありまして、これ人口増加してないんですけども、豊岡市がシミュレーション上、人口増加させるものを出しておりました。その条件が、2035年までに出生率2.5を達成しまして、同時に、今の段階から移動率ゼロ、つまり社会動態がプラマイ・ゼロであるという状態を続けて、これをずっと続けて、2055年で人口増加に転じるというふうなシミュレーションを出しております。これについてどのようにお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） それぞれの町の方法があるかなという、そういう思いであります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、次の質問で、人口問題に関しまして、結婚や出産というのは大きな役割があります。そこでお伺いいたします。行政として結婚や出産を促すべきとお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまでも婚活の推進であるとか、そういう実態を見ていただければおのずと分かると思います。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） そうですね。では、促す対象というものは、ここにおられる若者全て、全員に対して促していきたいというふうなお気持ちなのでしょうか。

○町長（西村 銀三君） 聞こえませんが、全然。ゆっくり言ってください。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 促す対象ですね、結婚や出産を促す対象というのは、町内に住む若者全てに対して促していきたいというふうなお気持ちなのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 質問の意図がちょっとよく分からんですけど、結婚適齢期というものがあるわけですから、そういった人が当然対象になるわけですね。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 本町を出て、Uターンしないところの理由にもちょっと関わってくるんですけども、昔から、地方どこも変わらないとは思いますが、都市部からちょっと帰省すると、結婚はまだか、子供はまだかと言われることが今の時代、非常に問題になっております。親戚と顔を合わせれば毎回言われるというふうな状況でございます。これが嫌でお盆や正月に帰ってきたくないという人もいるぐらいでございます。私自身はそんな気にしないタイプでなんですけれども、非常に身近な人でも聞きますし、多くの声が全国から聞こえてくる状態になっております。この言葉を繰り返

返されることが嫌でUターンしたくないというふうな、実家を離れたいという方がおられるんですけども、その点についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） それぞれ、人それぞれであります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） そうですね。私自身も、結婚したい方であれば結婚できるように施策を打ったらよいと思いますし、出産したい方にはしっかりと出産できるような形でサポートするのがよいと思っております。

では、中学校、高校の進路についてなんですけれども、本町では高校卒業すると、先ほど町長からも言われたように、8割方地域外に出ていってしまいますが、中学校、高校卒業を機に地域を出ることについては問題だとお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 問題だったらどうなるのか、問題なかったらどうなるか、出ることのメリット、デメリットがあるわけですけど、それを我々が問題だというふうなことは言えるはずがありません。質問が、もうちょっと考えていただきたいですね。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） そうですね、ただ、教育の中で高校卒業後に出ていかないうちというふうな話が出ることもありますし、出ていくことはこの町の大人として歓迎するけれども、帰ってきたいと思えるような町にするといったことを考えていく上で、中学校を出た段階で地域外の高校に行くことをどのように考え、取り組んでいくのか、高校卒業を機にどういった人生を歩みたいと思っているのかということをお考えすることは私自身は大事だと思います。

では、またこれもちょっと気持ちの部分なんですけれども、本町、Uターン、移住に関して力を入れておられます。移住者に対して、多くの町が移住者歓迎であるというふうなスタンスを取っております。一方で、高校卒業後もずっと地元に残って暮らしている方もいます。私はどちらの方も非常に大事ですので、移住者優遇ではなく、ずっと住んでいる方にも感謝の気持ちを込めて支援をするような姿勢が必要だと思うんですけども、どのようにお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 高校を卒業して地元に残る人、これは本当に、親を見ないけんとか、店を継がないけんとか、それから、地元がいいんだという、そういう考えの人、そういう環境にある方、それから、出ていかないといけない環境にある方、それから、いろんな自分の希望、将来に対する夢や希望、そういったものに向かうために出ていく人、そういった一人一人の思いの中で結果が出ているわけですから、それを町長がどう思うというふうな、そういう質問はちょっとあんまりよくないと思います。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 実際のところ、本町の移住制度というのはほとんどが定住者に優しい制度になっているかなというふうには思います。移住者だけが受けられる恩恵の制度ではなくて、地元に住んでいる方も補助を受けられるような設計になっているものが多くて、私はこの本町の移住制度に関しては評価できる部分は大きいのかなというふうに考えております。

帰ってこないことが問題ではあると思います、人口問題については。そこで、Uターンや移住を促進するために必要なことは何だとお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） Uターンをするための条件ですか。それは個人の置かれた環境でたくさんあると思います。具体的には、例えば子育ての世代であれば、子供が生まれたとき、急病になったとき、小児科医が欲しいな、小児科医はありますか、そういったふうなこと。それから高齢者であれば、やはり高齢者施設が充実してますかとか、それぞれの境遇の中で要望は様々だと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 様々な要因があるんですけども、町で方向性を考えるときにはどういったところに重点を置きながら施策を打つのかということが大事になると思いますので、このUターン、移住を促進するために必要だと特に思う分野とございますか、それについてお答えいただければうれしいです。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 予算配分でも、町の新たにできたおんせん天国室にしても、そういった今の行政の予算の使い方である程度議員も予測はできるという具合に考えておりますが、町の資産、海、山、温泉、この3つを生かして雇用の場を構築し、できるだけそういう働く場と収入を得る場、安定的に生活できる環境、そういったものがトータルにそろうということが基本的な条件になると思っております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 住宅についてはいかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 住宅1棟買うと、1,000万円とか2,000万円とか3,000万円とか、それから土地代も要ります。そういった意味では、住める住環境、値頃な土地の価格であるとか、それから、当町は温泉がありますから、温泉があるとか、そういうふうな条件、それから所得との兼ね合い、こういったものが大事かなと思っております。それから、移住定住っていいですか、例えば学校の先生が来ると、新温泉町にはアパートが少ないな、マンションが少ないな、で、岩美町に住むとか、そういう方も聞いておりますので、そういった住環境の整備は当然必要だと。民間が今かなり頑張っておりますので、民間の方々にもいろんな支援策もやっておりますので、そういった住環境の整備は当然必要だと考えております。

- 議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。
- 議員（3番 岡坂 遼太君） 民間の方が賃貸等の整備をするに当たって、町のほうで
どういった支援をされているのでしょうか。
- 議長（宮本 泰男君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） いろんな補助制度をつくっておりますし、特に民間の事業者の
支援というよりは、そこに移住して住まわれる方、それから住宅改修における補助制度、
様々な支援をさせていただいております。
- 議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。
- 議員（3番 岡坂 遼太君） 個人の方が住宅整備する際の補助金については理解でき
るんですけども、先ほどの答弁の中で、アパート等、賃貸が少ないというところが問題
であるというふうに言われていたんですけども、町のほうでアパート等の整備に関して
何か動きはありますか。
- 議長（宮本 泰男君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 何ていいますか、個人のそれぞれの事業者の力、それから、ア
パートを建てるためのいろんな障害といいますか、障壁があると思います。需要と供給
のバランス、こういったこともありますし、それから職人の手のこと、いろんな環境が
あると思います。そういったところは町が直接支援をするという部分とできない部分
があると考えております。
- 議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。
- 議員（3番 岡坂 遼太君） では、できる部分といったのは、こういったところでお
考えでしょうか。支援ができる部分というのはこういったものをお考えでしょうか。
- 議長（宮本 泰男君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） すぐ答弁はできません。
- 議長（宮本 泰男君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 商工観光課長から答弁をしていただきます。
- 議長（宮本 泰男君） 福井商工観光課長。
- 商工観光課長（福井 崇弘君） 家主といいますか、アパート建築される方に対する直
接の補助はございませんが、入居される方に対する、若者の方への補助がございますの
で、そちらが間接的に建設へのモチベーションにつながるかと思っております。以上で
す。
- 議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。
- 議員（3番 岡坂 遼太君） 住むための、アパートに住もうと思ってもなかなか住む
場所がないんですけども、その辺りの支援はまだ回答できないということでしたので、
また今後に期待しておきます。
- また、町長では、Uターンを促進するためにふるさと教育に力を入れるというふうな
ことがしばしば言われております。ふるさと教育というものはUターン増加に貢献して

いるのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと教育とUターンの関係性ですか。当然あると思います。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） それは、数字だとか、何か得られるエビデンスのようなものはあるのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさとを感じるというのは主観的なものですから、具体的に行政がこうだからこうだ、そういうものではないと。ふるさと教育は自分が育った、そういう環境を将来どう感じて、あっ、ふるさとに帰りたいなという気持ちになるのか、いや、あそこはあんまりいい思い出はないなというのか、それは個人の主観で大きく変わってくると、それを成果として言えというふうなことはちょっと難しいなと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） ふるさと教育が貢献しているかどうか、その辺りについて、教育長からも御意見を伺いたいです。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、本町でもふるさと教育を柱にして、こども園から小・中・高まで、それを継続していく、ふるさとのよさをやはり小さいときから子供たちに、いろんな地域の皆様との触れ合いだとか、地域の中での祭りに参加をするだとか、それから、学校の中で地域探検をして、町のふるさとのよさを知っていくとか、そういったことをいろんな学習をしながらふるさと教育を続けているわけですがけれども、その教育がやはり子供たちの心の片隅に本当にしっかりと落ち込んでいって、将来生きていく中で、どこかでふと振り返ったときに、やはり自分の育ったふるさとに誇りを持っていただけ、やっぱりあそこ、自分たちが育った町はいい町だったんだ、あのふるさとに帰っていきたいという思いを持ってもらえるように、今、教育ではしっかりと進めていこうとしております。それが、数字的なことはちょっと私自身申し上げられないというか、資料もないので具体的なことは申し上げられないんですけれども、でも、そういった教育は必ず生きるっていうふうに私は思っています。ですから、Uターンとか、やがてこのふるさとにいつか帰ってきてくれる子供をみんなでやっぱり育てていくべきだっというふうに思っております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 効果は現れるか分からないけれども、力を入れていくというふうに理解いたしました。長年取り組んでおられますよね。私、33歳なんですけれども、私が、中学校、小学校もかもしれませんが、小学校、中学校、高校とふるさと教育を受けたという認識があります。町のほうでは、ふるさと教育に力を入れ始めたの

はいつぐらいになりますか、分かる範囲でお答えいただきたいです。

○議長（宮本 泰男君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 私が浜坂小学校に学んだ頃に、教頭先生から加藤文太郎であったり、前田純孝の話聞いた記憶がございますので、確実にその頃からふるさと教育はされて、私の心に入っているというふうに思います。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、おおむね半世紀にわたり、ふるさと教育をしているようなことになるのかなと思います。日本の教育でいえば、大正時代あたりに愛郷教育、愛郷運動といったものがありまして、線路が敷かれ始めた時期ですね。都市部に行かれる方が多くて、そういった中で農村意識を高めるために愛郷運動がスタートしております。ふるさと教育、愛郷教育なりが長いわけですから、ある程度何がどう作用するのかというのは考えなければいけないのではないかなと思います。教育に関して力を入れて、それがどう作用して、この町に対して戻ってくるなり、あるいは貢献してくれるなりというところを考えずに、ただふるさと教育が主観であってもいいはずだから力を入れていくでは、教育ないし、子供たちのキャリア自体もよいものにはならないのではないかなというふうに考えます。ただ、私自身はふるさと教育を受けて、ああ、松葉ガニこんな取れるのに何で知名度がないんだと、もっとできるんじゃないの、ポテンシャルあるんじゃないのというふうに思って高校、大学と過ごしてきたわけなので、私自身には効果は出ているんですけども、ただ、Nイコール1の話をしては仕方ないので、もっとみんながどういうふうに作用するのかを考えていただきたいと思います。

Uターン促進の話で、雇用という部分が出ました。昨日の答弁の中でも起業家意識といったものが出ましたが、この雇用に関して、新温泉町に帰ってきて就きたい仕事がないというふうな高校生のアンケートもありますよね。小・中学校の教育の中で、今後、町に帰ってこれる人材にするような教育というものは考えられないでしょうか。

○町長（西村 銀三君） 教育はちょっと教育長で。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 願いとして、この新温泉町を本当に持続可能な町にするために、やっぱり若い力って必要だと思っています。その若い子供たちを育てる、本当に子供たちがこのふるさとに誇りを持てるような教育を展開していくべきだと思っています。いろんなふるさと教育の中でも、いろんなことがあると思います。この偉人のことについて学ぶこともそうですし、地域の、自分たちの地域にずっと伝統文化が残っていること、やっぱりそんなことに触れながら、そういう子供たちがこの新温泉町で育ってよかったって思って、ここを巣立っていく、巣立っていくけれども、やっぱりこのふるさとに戻ってくるっていう人材育成を、教育だけではなくって、本当に、学校教育だけじゃなくってという意味です、学校教育だけではなくって、社会教育、それから先ほど申し上げたんですけども、地域、それから家庭教育の中でもやっぱりみんなが力を合わせ

て、本当に今この目の前にいる子供たちにどう新温泉町の魅力を、よさを伝えていく、この新温泉町のことを将来考えてくれる子供、人材育成につながるような教育をとということで、今、幼・小・中・高の連携教育も進めております。その中でそれぞれの年齢に合った段階でのふるさと教育にずっと取り組んでおりますので、そういったことがどこかで必ず実を結ぶというふうに思っております。そういった連携教育をより充実させていくことが大事だなというふうに思っています。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 社会教育、地域教育をして地域郷土愛が生まれたとて、帰ってくる、帰ってきたときに仕事をどうするかというところの解決にはならないんじゃないかなというふうに私自身は思います。

そこで、提案なのですが、現在G I G Aスクールで各子供たちがパソコン、タブレットPCを持ってやっておられるわけです。今現在もそうなんですけども、リモートワークで都市部の企業に勤めながらこちらに住むということは可能になっています。パソコンを扱えて、それを使えばどこでも住めるという認識を持てれば、地元が好きであれば、地元でいいじゃんというふうな選択肢も増えると思います。現状、日本は世界的に見ても、家庭にパソコンを持っている世帯が少なく、そういったスキルが非常に劣っている国であります。G I G Aスクールによってこれが変わってくるとは思うんですけども、G I G Aスクールで各子供たちがパソコンを扱って、すごくスキルが身についているかといったら、そこまで今まだ活用できていないという状態があると思います。ふるさと教育にしても、町のことを調べて、どこかに展示しますといったときに、手書きのシートを張り出しているんですよ、中学生にしても。これ、もう今はパワーポイントなりで作って張り出したらいいと思うんですよ。中学生、できます。先生ができるかは分かりません。なので、もっと活用して、読書感想文なんかも手書きではなくて、もうパソコンで打たせることを推奨するぐらいのことをして、日常の中に、学習の中に、ふるさと教育の中でもいいです、パソコンをもっともっと取り入れて活用していくことで、彼らがパソコンを使って、自分たちは仕事できるんだと、それだけでもかなり選択肢が増えると思いますので、そういったふうに、教育の大きな方向転換ではないです、ふるさと教育の中により活用するだとか、そういったことをしていったらどうかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） G I G Aスクール構想の中で、今大きな教育の流れが、G I G Aスクール構想ということで変わってきております。当然パワーポイントでやっぱり発信していく、表現していく、とっても大事な力になると思います。今、大学生とか企業で求められている力の中にもやっぱり、どう表現してプレゼンする能力だとか、いろんなことが求められているわけですから、これを活用していくということは大変有効なことだなと思っています。パワーポイントについても、今年度、夢が丘中学校なんかで

は、トライやる・ウィークの発表会ではそれを活用して上手に発表もしておりましたし、いろんなところで活用していく、そういった力を、やはりスキルを磨いていくということは大事成ってくるのではないかというふうに思っています。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） こういった議論の中でふるさと教育が実を結んで、多くの方がUターンしたとしても、基本的には人口は増加に転じないというのが私の見込みでございます。町長は、今後の議論でも人口を増やすというふうなことは、お気持ちを表明されるおつもりでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 海、山、温泉を生かしてまちづくり、元気なまちづくりをしたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 昨日の同僚議員の一般質問の中で、生産性のある議論を求めるといふような発言がございました。何年後に増加するかも分からない、有効な策が分からない中で、人口増加という前提で議論を進めることは非常にフォーカスがぼける、生産性のない議論かなというふうに思っております。人口増加を前提にする場合と人口減少を穏やかにする場合とでは取り組むべき内容に違いが生まれます。少なくとも、総人口でなくとも、どこかピンポイントの人口というふうに絞っていただけるなら施策の打ちようもあると思うんですけれども、その点はいかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教えていただきたい点がたくさんありますね。人口増を目的にするのとしらないの具体的な指標を教えてほしいと思います。増やすという大前提で取り組んでいるという、そういうまちづくりの基本姿勢が、縮むから縮むよという、そういう縮む発想でまちづくりをするというのか、それは将来大きく変わってくるという具合に考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 縮むから縮むような政策を打つべきだと私は考えます。先ほど初めのほうに、18町村で人口増加があってというふうにお伝えしました。どの市町も1960年代ぐらいからずっと増加傾向にあると言いました。ただ、その中でも幾つの特徴があって、似たもので、中核都市二、三十キロ離れて、新温泉町と同じ状況ですよ、そういった町村で伸びているところには一定の傾向がありました。どういったものかということ、中核都市よりも土地の代金が安いというものです。必ず一致しています。

新温泉町、鳥取市の公示価格の地価を見ますと、鳥取駅前坪単価三、四十万円、高くて40万円程度です。そこから少し離れて、鳥取市の浜坂ってありますよね、砂丘前の、そこが5万から15万円ぐらい、福部だとかカインズモール近くで5万円強、浜村

駅、気高町の6万円ぐらいですね、そういったものになっています。岩美町、インターチェンジ近くで8万円程度ぐらいです。インターチェンジを離れるとすぐに安くなるわけですが、安いところで坪単価2万円ぐらいになっています。新温泉町、どうかというと、浜坂駅前で10万円強ですね、湯村温泉が20万円です。ほかのところが2万から5万円の坪単価になっています。鳥取駅、鳥取市街地から近くても新温泉町とそう大差ない坪単価なんですよね。そういったことがかなり大きな影響にはなっているかなと思います。新温泉町から転出して鳥取県に住む方が多いというのも、地元が近いし、土地も安いし、賃貸もあるしというふうなところが非常に作用しているんだなというところがこの全国的なものの一定の傾向を見る中で見えました。

その部分で、新温泉町、土地に利があるわけではないんです。ただ、ほかの人口減少している町に比べたら、中核都市がこれだけ近くて、便利ではあると思うんです。但馬ではかなり便利だと私は思ってます、新温泉町は。出産に関しても、産院を3つ選べる、3つ、4つ選べる町はないですよ、但馬に。何かうまくすれば、豊岡市よりも全然便利だというふうなことはできると思います。その辺を客観的な指標を持って、気持ち、気合でやるというものではなくて、データに基づいて行ってほしいと思います。

また、人口増加に転じるに当たって、100人、200人と毎年必要なものなんですけれども、じゃあ、温泉を活用して、温泉に住める、100人、200人、温泉で賄えるかといったら賄えません。雇用もそうです。地元企業だけで200人、300人、これから増やすのは無理です。今現状、ハローワークに新温泉町で正社員で出ている雇用が100人の募集です。人口増加、徐々にしていけば、可能性はないにしても、それをどのくらいの期間でという見込みなしに人口増加を唱えるのは無理があるのではないかと思います。

次の質問に移ります。ワーケーション事業をはじめとして、本町の施策で関係人口というワードが散見されます。情報化計画や後期基本計画にも言葉が使用されておりまして、本町にとって重要概念であると考えられるため、今後の在り方を検討したいです。

まず、本町における関係人口とはどのようなものだと捉えておられますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 国は第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略において、地方とのつながりを築いて、地方へ人の流れをつくるとの目標の下、関係人口の創出、拡大を位置づけ、推進しております。本町においては同様に、関係人口とは移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、本町に継続的に多様な形で関わる人々のことを指しています。具体的には何度もリピートをしていただける方、それから地域内にルーツがある方、それから何らかの関わりが過去にあったりした、そういった経験のある方、こういった方を関係人口と考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） では、国や県が示しているものと同様の定義でおられる

というふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県がどういうのを定住人口としてるのかはちょっとつかんでおりませんが、町の方針はそういう方針であります。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） すみません、県も国同様の定義で進んでおります。

では、現在本町にはどのような関係人口がおられるというふうに捉えているのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町の出身者をはじめ、町親善大使、それから観光大使、それからふるさとづくり寄附、ふるさと納税をいただいた寄附者の方々、それからワーケーション来訪者など、本町への愛着や思いを持った多様な関係人口の方々がいると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） はい、多様だと思います。8月31日の日本海新聞に地域課題解決における県の実証実験の記事が出ておりました。夢が丘中学校の鹿対策について、神戸市の企業が超音波機を用いて対策に取り組むと書いてありました。こういった方々は関係人口に当たるのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 関係人口といいますか、鹿の対策でそういう事業を行っております。関係人口になるのではないかと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） もう一つ例示します。鳥取に住み、週末に実家で過ごしたり、墓掃除、地区の総事などに参加する人なんかはどうでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 鳥取に住む方、それを関係人口と言えということですか。

○議員（3番 岡坂 遼太君） いや、どちらか。

○町長（西村 銀三君） ちょっと分かりません、それは。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） すみません、そうですね。出身ですね、出身に含まれますね。では、関係人口というところで理解しておきます。

多様な形で、地域に大きな影響を与える人から非常に小さな影響の人まで多岐にわたるのが関係人口であると思います。様々な形で地域に関わる関係人口なんですけど、この関係人口が増えることのメリットというのは何だとお考えでしょうか。

○町長（西村 銀三君） 最後の部分のが分からん、言葉が。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） メリットというのは、人口減少、高齢化が急速に進行し、地域づくりの担い手不足という課題に直面している本町にとって、地域外の方々との関係人口は、その担い手として活躍することにとどまらず、地域住民との交流がイノベーションや新たな価値を生むことで地域活性化につながるほか、将来的な移住者の増加につながると期待をいたしております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 移住者増加は、これ、関係人口で、本来であれば期待すべきものではないかなと思います。国交省のほうの調査でも、ほぼほぼ相関がないというふうな形でデータが出ておりますし、関係人口、交流人口、定住の中のグラフ図の中でもステップアップでより関係性を濃くしていくことに意義はあるんですけども、そこから定住というのは正直期待すべきものではないかなと思います。

関係人口において、ワーケーション事業というのはどのような位置づけでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町が進めているワーケーション事業は、課題解決型ワーケーションの方式であります。外部から来られた方に地域課題について関わっていただき、地域との関係性を構築しつつ課題解決を行うものであります。町内で短期生活していただくことによって、また、住民と一緒に同じ目線で課題を捉えることで、より親近感を感じ、住民との交流、関係性が続いていくことを目標といたしております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） この関係人口とワーケーションの関係をもう少し知りたいのでお尋ねします。

私のイメージでは、本町が目指す課題解決型ワーケーションは、丸々関係人口に包括されるようなものなのかなというふうに考えるんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 関係人口だと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） ワーケーション含め、この関係人口、大事な概念ではあると思います。これを何か効果をはかっていくですとか、そもそも数値化を行う予定があるかどうか、お考えかどうかをお答えいただけるでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町では、後期基本計画及び第2期総合戦略において、関係人口に係る評価の指標を設定しておりませんが、例えば継続的に地域づくり活動に関わってくれる外部人材の数などを調査することによって、関係人口を創出するための取組が本町や地域にもたらす効果をはかることができるのではないかと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） この調査、数値化等なんですけども、国が行っている、

総務省が行っている関係人口のモデル事業が全国に多数ありまして、それで、その報告があるんですけども、関係人口の数に焦点を当て過ぎると、関係人口の拡大が目的になってしまいまして、本来の目的である地域課題の解決がないがしろになってしまうというふうな報告がなされています。そこで提案なんですけれども、関係人口の数値化については、国や県がそれらしいK P Iの算出方法をつくり上げるまでは、私は町独自のK P Iを立てないでいただきたいです。理由は、曖昧で定量性のない指標をつくってしまうと、目的を失って、スマートな動きができなくなるためです。関係人口については、数値目標等をしばらく、国等が定めるまでは定めないというふうな方向について、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 参考意見として聞かせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 一方で、先ほど同僚議員もありましたけれども、ワーケーションに関しては補助金を使って実施しているというところもありますし、来年度以降も続く可能性がある継続的な事業でございます。これについては、何かしらの数値は少なくとも必要ではないかなというふうに思います。ただ、議員含め、私ども含め、理解が必要だと思うところが、関係人口について、言葉が提唱されてからずっと言われていることがあります。それは人口という言葉を使いながらも、人口という数では測れない概念であるということが注意点としてあります。関係人口というのは、量と質の両面で見ることが必要です。現在ワーケーションで来られている方も、たとえ一人であったとしても、その一人が大きなフォロワーを持っている方で、その発信に力があったり、PRにつながったりするということで、かなり大きな力を持つことがあります。そういったところを踏まえながら、町のほうでワーケーションに関して数値化をするに当たっても、その数値の理解としては、あくまで参考であって、どの程度の波及なのかという定性的な部分に関して、しっかりと評価といいますか、チェックをしながら行っていくべきではないかなと思っています。

また、ちょっと気になるところで、昨日の答弁で人脈一覧表というアイデアが出ましたが、これはどういったものなのでしょう。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 人脈一覧表です。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 人脈一覧表というのは、お知り合いの連絡帳のようなものなのでしょう。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当町から出たお医者さん、どういう方がいるとか、そういう人脈をきっちりつながりを一覧表にしておくというふうな、そういうことが重要なと

考えております。作っておるわけじゃありません。そこに論議は必要ないと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 町長個人として行うものであって、町として行うものではないというふうなところでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そこも含めて、今後の課題ということです。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 町長個人として作成するのは悪くはないと私は思いますが、町としては、これは非常に難しいと思います。特に更新という意味では難しいと思います。関係人口そのものについてもそうなんですけれども、それぞれの方がどのくらい関係人口、関係したからといって、今後も何十年も続くというものではないというのが関係している方々です。子供を持って参加できなくなったりだとか、親の介護が始まって参加できなくなるというようなことはよくあることですので、継続という観点で名簿化というのは町としてはほぼ無理というふうなところなので、今後、実現に当たっても、その辺りは検討していただけるかと思えます。

また、関係人口を創出するために、関わり代というものが必要になります。この関わり代というのは、工作のときにのり代という言葉がありますよね。のりをここに貼ってくださいというふうなところなんですけれども、関わり代というのは、ここに困ってるからここに関わってもらえたらうれしいですよというふうなものを提示するものが関わり代です。この関わり代をどう皆さんから見えるようにして、地域に関わってもらうかが大事なのですが、何かお考えはありますでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 関係人口は、地域課題の解決など、地域づくりの担い手として活躍が期待されています。そういった関係人口を創出するために、各地域、集落などにおける、今言われた関わり代、地域外の人材が地域と関わるきっかけとなるのり代部分といえますか、そういったものを整理し、見える化することが必要なと考えております。議員がおっしゃる関わり代が明確になれば、地域外の人にとっても自分の得意分野や関心、やりがいなどとマッチングしやすくなり、その地域の実情に応じた関係人口の創出につながるものと考えます。そのために、各地域で住民同士が地域の困り事、そして地域の魅力などを十分に話し合っ、地域の共通認識としてまとめていただくことが重要だと考えております。行政として地域での話し合いの場づくりの支援などを検討していく必要があると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 地域から、例えば県の事業であれば、正法庵が農村ボランティアを募集しているということがあったり、上山エコミュージアムが火入れのイベ

ントをしてくださっているんですけども、そのイベントに都市部のほうから参加する方というのも関係人口になると思います。また、文化財地域活用計画のほうでも、町外の主体を巻き込みながら保存していきたいというふうなことが書いてありましたので、これも関係人口になっていくと思います。この関われる部分、町が課題と思って手を出している部分というところが見えるようになれば、町に対して関心を持っている方、ふるさと教育で、離れていても、同じ空の下、この新温泉町を思って何かできないかなと思っていての方が手を伸ばそうとしたときに、町の側からも手が伸びていると、そこで関わりが生まれてくるということになりますので、関わり代を提示できることが大事です。この関わり代を見える化する手だて、アイデアというものはお持ちでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まだ考えておりません。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 何かしらSNSですとか、ホームページなり、どこかしらで見える化して、よりそれぞれの方が手伝いたい、力になりたいと思ったときに町に貢献できるという体制を取っていただければうれしいです。

最後、農家の所得向上についてです。本町でも農家に対して支援をしているわけなんですけれども、本町の一次産業の長期的な発展を考えたときに、稼ぐための取組を活発にしなければいけません。従前から町長が農業に関して言うておられる温泉活用について、現状をお伺いします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 合併以前、温泉地域の歌長地域に温泉活用をした栽培ハウス事業を行いました。結果として、期待した事業の効果を得ることができませんでした。当時事業に関わっていた方からのヒアリングにより、事業課題の確認を行い、今後の取組への参考にしたいと考えています。

現在、温泉活用の状況につきまして、試験的ですが、花苗の消毒、水稻の種子消毒の活用実績があり、中でも花苗の消毒につきましては、大変好評であったようであります。また、昨年度、担当課で温泉を活用したハウスの先進地視察を計画しておりましたが、コロナ感染拡大のため今年度に延期をいたしております。今後、果樹、野菜等、どの品目がよいか、その活用方法も含めて、研究をしてまいりたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 農家の所得向上は、どのようにしたらよいと考えているでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 農家の所得向上のためには、販売価格の向上と販売量の増大といった、収入を増やす取組と生産コストを減らす取組が必要であります。町内で農業経営に長年関わってきた農業者の方を対象に、今年度ヒアリングを行い、意見を聞く中、

出荷、販売先の確保が一番大事であるという話も聞きました。栽培するだけでなく、販路や出荷時期を見据え、どの時期に何を作れば、そして、どこに売れるかを研究していくことが大事だと考えております。また、安定した出荷体制、道の駅等への生産者の決めた値段で販売できる仕組みづくりと併せ、農産物の生産と同時に加工、販売といった六次産業につなげることも有効な手段の一つであります。さらに、小規模でも様々な作物の安定的な生産、供給を志向しながら、高収益作物の生産につなげ、高齢者が生きがい農業として継続できる地域の地形、それから気象などに合った作物の栽培を進めなければならないと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 販路の確保であったり、売手のニーズをつかんで、そこに対して売っていくというところが非常に重要だなというふうに思います。そこで、オンライン直売場といいますか、ネット通販等のサイトを通して販売することがとても効果的だというふうに考えているんですけども、その部分、支援のほうはお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 道の駅などの販売を考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） この販路確保に関しては、道の駅が現在集客がオンライン上でできているわけではないですよ。ですので、新規に開拓するというふうな意味での通販サイトの利用ではなくて、既に顧客がそこにいて、ニーズがある中に飛び込んでいくというところが、この価格を上昇させたり、ブランディングであったり、販路をしっかりと見つけるために必要だと思います。そこで例として出されるのが食べチョクであったりアウルというふうなものが出ておりました。そういった通販サイト利用に関して、手数料だとか、そういった部分の補助は御検討されるのでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういう詳しい詳細につきましては、担当課長から答えていただきます。

○議長（宮本 泰男君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 午前中の議員の御質問の中にもございましたが、通販サイトを使っての販路拡大ということで、こういった農業者に対しての支援があるか、そういったことも研究しながら、今後の手だてとして研究してまいりたいというふうに考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） この同僚議員の答弁の中では、この通販サイトの手数料補助については、ふるさと納税含めて取り組みたいというふうなところで検討されるというふうな回答でしたが、ふるさと納税サイトとはまた別のことで切り分けて考えてい

ただけたらうれしいかなと思います。

また、このオンラインを使って販売に関しまして、そういった大手のサイトですとかを利用する、あるいは御自身でネットショップを立ち上げて販売していくといったところが買手のニーズをつかんでいくことについて大事なんですけども、つまり、農家自身が買手のニーズをつかむ、買手とつながって、評判を自分自身が体感していくというところが大事です。そういったインターネットを活用した部分でオンラインのサイトを利用すると手数料がかかるだとか、自分自身でつくとデザイン料だとか開発料がかかるだとか、いろいろと名目が変わってきますが、共通してかかるコストがありまして、それが送料です。この送料を補助するというのはどうかなというふうに提案します。理由は、送料がかかるということは、つまり、それは外貨を稼いでいることになりまして、地域に貢献していくと、地域内での相場とは異なった部分で農産物を販売できるという利点がありますが、送料について、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 即答できません。検討します。

○議長（宮本 泰男君） 岡坂議員。残り時間少なくなりましたので、整理して質問してください。

○議員（3番 岡坂 遼太君） はい。

所得向上とは少し話が替わるんですけども、農家の担い手ということを考えたときに、所得向上だけではなくて、労働時間当たりの収入といったことも大事になってくるかなと思います。働き方がとても負担になっていると、とてもじゃないですが、担い手が増えていくことにはなりません。人材不足、人手不足というところが問題となっております。現在、日本の社会というのはフルタイムの通年雇用となっております、繁忙期だけ手伝ってくれる人というのは非常に枯渇しているという状態がありまして、ふるさと納税で一時的に注文が殺到すると人手が足りなくて難しいというのも、ここには人手が短期的にでも手伝ってくれる人がいないから、その繁忙に対応できないというところがあると思います。

そこで、福祉関係から着手している農福連携を進めてはどうでしょうか。農福連携は、障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、社会参画を実現していく取組です。今、健康福祉課でモデル的に行っているものですが、農業側が作業をきちんと整理して、ここなら手伝ってもらえるという関わり代を提示することで、上手に連携できるというふうな事例が出てきております。作業の効率化や労働時間短縮のために農福連携を進めることについて御見解をお伺いします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 農福連携を進めることによって、効率化、それから労働時間短縮を図ることは難しいと考えております。それは一般的な効率化や労働時間短縮への手段は機械化であると考えてからであります。現在、農業現場で農業者の高齢化や担い手

不足の課題がある一方、福祉の現場では障がいのある方が働くことができる場の拡大が求められています。そのような中、農福連携の推進は、障がい者を適性に応じて積極的に雇用することで、双方にメリットがあると考えます。兵庫県でも、2021年に策定したひょうご農林水産ビジョン2030の中で、農福連携を新たな推進として位置づけ、ひょうご農林機構に農福連携推進窓口を設置しました。農福連携を進める上で、農業者と障がい者がお互いの課題やニーズなどについて理解を深めることが不可欠であり、今後、関係課や関係機関と連携を図り、研究を進めてまいりたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） この農業の中で、例えば農業を一連の作業で考えれば様々な知識が必要で、大型機械や刃物を使うことが多くなっていて、完全に関わるというのは難しい部分があるんですけども、収穫だけであったり、草むしりだけ、パッケージのシール貼りだけ、段ボールの組立てだけ、選別だけ、袋詰めだけなど、作業を分割することで非常に効率よくできるというふうな事例が農家自身から全国的に、他地域ではありますけれども、出ております。それを取り組んでいただければ、この町の農家からでも、夜の間に夜通しでパッケージの部分だけしていると、夫婦で、というようなことは聞いたりしておりますので、作業を分割すれば可能性はあるものだと思いますし、この福祉と手をつなぐことによって、町としても魅力的なものになるのではないかなというふうに考えます。いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 研究を進めたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 3番、岡坂遼太君。

○議員（3番 岡坂 遼太君） 人口が減少する中で、町と町外の人、あるいは町内でも町内の方が関われる部分で関わって、町の、地域の課題を解決するということはできると思いますので、その関わりをより強固にできるような、町民みんなが前向きに取り組んで、この町の地域課題を解決できるような町になっていくことを期待したいと思います。以上です。

○議長（宮本 泰男君） 答弁要りませんね。

○議員（3番 岡坂 遼太君） はい。

○議長（宮本 泰男君） これで岡坂遼太君の質問を終わります。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。3時55分まで。

午後3時41分休憩

午後3時55分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、7番、浜田直子君の質問を許可いたします。

7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 7番、浜田直子です。議長より許可をいただきましたので、一般質問させていただきます。

自然を生かした豊かな町並みを生かし、ウォーキングで健康の町にということでお尋ねさせていただきます。自然豊かな新温泉町の景観を生かしたスポーツの中でもとても人気のあるウォーキング、併せてサイクリングを提案します。町民にも地域のよさを伝え、認識していただくことにより、観光につながるのではないかと感じています。

ちょうど最近の記事で、ウォーキングは13種類のがんの予防に効く、ウォーキングで第二の心臓、足を鍛えて血流を改善しながら免疫力をアップというような記事もあり、まず、町民が健康になり、そして、この町のよさを体感していただく。それに伴い、浜坂道路ができますが、そうすることにより、ますます交流人口、旅行の人口も増えると考えられます。ですが、浜坂道路ができてしまうと、この新温泉町の海、山の自然を感じていただけることがとても少なくなります。ちょうど山陰海岸ジオウォークというのが昨日、おとといでしたかね、の新聞で山陰海岸ジオウォーク実行委員会の開催で5キロと20キロコースが開催されるようになっています。このように豊かな自然を感じていただけるウォーキングというものは、これからの観光につながると感じています。そのような仕組みを増やしていくにはどのようなお考えをお持ちでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 健康とウォーキング、町内でも夜、夕方歩いてる方、早朝もあります。たくさんウォーキングによって健康維持をされている方が多いようであります。現在、海岸沿いを歩くジオパークトレイル、それから上山高原一帯のハイキングなど、新温泉町の自然環境を満喫できるウォーキングコースがあります。昨今のアウトドアブームもあって、多くの方々に利用していただいております。それから、健康面であるとか、それから運動指導であるとか、それから、具体的な方法として、このウォーキングを積極的にやることで健康、それから運動を盛り上げる、そういう具体策の一環として、ノルディックウォーキングの指導などを受け、町内の講師などを招き、浜坂県民サンビーチや照来地区などを歩くコースもあり、海、山など景色を楽しみながら、生活習慣病の改善などに効果があり、実践できる内容となっております。そういったいろいろなウォーキングに関する企画を充実させながら、ウォーキングプラス健康プラス運動、こういった方向で推進をやっていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのようにしていただいております。それは存じ上げております。そこを今もされているのは本当にありがたいですし、そのように広めていただきたいと思います。そして、町民の皆さんが健康になっていただきたい。その上で、それを定着し、実際にそのようなことを観光というか、誰でもできるように導いていただける

方法っていうのはありますでしょうか。今、一部の方に限られていると思うんです。そういったようなものをもっとそのよさを大きくPRして、それを観光に結びつける、そのような仕組みをしていただければと思います。

ちょうど新温泉町の生涯教育課がこの1月に行った地域資源を生かしたヘルススポーツツーリズムというものが、県立大学の芸術文化観光専門職大学の高橋教授の講演会がありました。その中でこれから今後の打ち手を考えるという提案といたしまして、2020年からは、ヘルススポーツツーリズムの需要、さらに高まる。公園や自然の機能や価値が高く売れる時代、ここにはスポーツの組合せが必須とあります。コロナ禍でも医療が充実し、自然があるヘルスケアリゾートには顧客を集めていた。ツーリズム協会は、ヘルス・アンド・ウェルネスを中核コンセプトとして回復へとあります。だから、旅で健康なんですというようなことです。そういったような観光に結びつける、そういったようなところまでの仕組みづくりというものを期待しますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 生涯教育を中心に、健康であるとか、こういった関連事業をやっておるわけですが、先週もナイター陸上、ビーチバレー、さらにはビーチサッカー、様々な運動に関する企画があります。また、イベントもたくさんあります。そういった中で、次から次と町が主体となってイベントを増やしていく、観光的という面はよく分かるんですけど、現状で本当に大変厳しい状況があります。ぜひ浜田議員のグループでこういった組織を立ち上げて、率先垂範、見本を見せていただきたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 実際そのようにされています。いいところはあるんですが、この町がよく言われている、もうちょっとこうしたらいいのになんていうようなところは、PRが足りてないのではないかとというのがとても感じています。

それと、一つ分かりにくい。せっかくたくさんウォーキングコースっていうのはチラシでは見ますが、実際歩こうと思っても分かりにくいっていうか、それを実際歩きにくいっていうのがネックではないかと、ある大学の先生が何度か来てくださって、この町をとて気に入り、この町は自然に恵まれているから健康を生かすには本当にいいところだと言ってくださっている教授もおられます。そういったようなところで、あと一步、本当にいいところまで来てるのになんていうようなことがあり、これを提案させていただいています。ぜひ、もっと歩きやすい工夫、歩くための提案っていうのの一つに、隣の香美町では、ウォーキングの勧めというようなクリアファイルを、ウォーキングの仕方やウォーキングの効果など、そういったようなものを高齢者中心にクリアファイルで裏表でいろいろ印刷して、そういったようなことも配布されておられます。そういったような提案を広めていくようなお考えはありませんでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところはありません。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ぜひしていただきたいのですが、どうでしょうか。健康福祉課でウォーキング教室っていうのは一部の方に限られているように伺っております。もうちょっとそれを広めていくとか、そういったようなところのお考えはないでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在いきいき百歳体操を地域が、リーダーが頑張っていたいでやっているわけですけど、このいきいき百歳体操、それから、こういったウォーキング、健康には持ってこいだと思っておりますが、行政でやるというよりは、やはり地域のリーダーを養成していただいて頑張っていたほうが楽しいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ウォーキングのメリットは、一人でもできる、気軽にできるっていうのがありますので、歩く楽しみを付加価値をつけてあげれば、また変わってくるのではないかとと思います。

提案として、麒麟獅子マラソン大会でウォーキングコースっていうものもされてはいいのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いい案だとは思いますが、誰がやるかというのは、町がということにはちょっと難しいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 私は、麒麟獅子マラソン大会の中で、そういうウォーキングのコースをつくったと言っていますので、これはまた麒麟獅子マラソン大会のほうで提案させてもらおうと思います。ウォーキングで健康なまちづくりを目指していただけるとありがたいというのが私の思いですし、ウォーキングとサイクリング、この町の自然を感じていただく機会を増やしていただくよう努力していただくよう期待いたします。

それと、次の質問へ移らせていただきます。

相撲の町、新温泉町としての展望はどうか。国技である相撲に対する新温泉町としての今後の展望をと、町内の相撲場の現状はどうでしょうか。また、今回大活躍した浜坂中学校の相撲部の子供たちへの支援も併せてお伺いいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町、特にこの浜坂地域では、昔から相撲の盛んな地域であり、町であり、現在も地元出身力士が大活躍をいたしております。浜坂中学校相撲部は、この夏、全国大会で団体戦16位になるなど、すばらしい成績を収めております。

浜坂中学校出身の高校生も全国大会に出場するなどの活躍をしています。また、わんぱく相撲美方場所が3年ぶりに美方青年会議所主催の下、開催できております。26人、香美町からも7人が参加していただいております。

現在、浜坂体育センターの横、浜坂相撲場を使っております。ここの利活用をさらに高めるよう、ちょっと傷んだ部分もありますけど、前向きに取り組んでいくようにしたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 町内には、ほかにも相撲場があります。今あまり使っていないように感じるんですが、そういったような相撲場の現状を教えてください。そして、それをどういうふうに使っていくかというようなことも思いがあれば教えていただきたいです。

というのが、やはり子供たち、そういう機会に触れる、わんぱく相撲もそうですけど、わんぱく相撲だけではなく、もっといろんな機会に相撲と触れ合うことができたらいいと思います。町内の相撲場の現状をお聞かせください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ある事業所の相撲場、それから今言った体育センターの横、それから久谷にもあるようであります。それから浜高にも、最近使っていないんですけど、あるということでもあります。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 久谷ではなく、久谷のはもうちょっと残念ながらもなくなってしまったんですけど、浜坂東小学校にあるんですけど、あそこが使われてないんです。あそこで使えるようになれば、また本当に立派な相撲場ありますのでいいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、需要と、そういった施設整備の使えるかどうか、そういう現状把握が必要だと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのとおりだと思います。ちょっと分からない、ちょうど柱が隠れてますので、危険度が分からないということで今手をつけてないようですので、できればそういったようなところを確認していただき、実際使えるのかどうか、使えるのであれば活用していただきたいし、やはりそういったような相撲の町であって、そういったちゃんとした相撲場はありながら、そのように何というか、使わずにっていうか、使っていないのは大変残念ですので、そういったようなところの相撲場をもう一度ちゃんとしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在使っている体育センター横の相撲場、それから事業所の相

撲場、こういったところが十分使えるという状況があるようですので、現在の相撲人口の中で、それ以外の状況が使えるかどうか、そういった相撲の人口、裾野というものを十分考えて検討をしたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのように前向きに検討していただくようお願いいたします。

中学生が大活躍しています。全国の高校に行っているのが今の現状です。浜坂高校でも続けていける環境をつくれれば、またその子たちも地元で頑張れるのではないかと思います。どのようにお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜高の在り方につきましては、やはり特徴ある浜高、そういう中で、地域の方が浜高に少しでもたくさん行っていただけるような、そういう在り方を検討する必要があると思っております。そういった中で、相撲の町として浜高に相撲部というふうなことは、大変できればやっていきたいと思っております。そういった面も含めて、浜高の校長先生には、そういう働きかけをしていきたいなと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ぜひ、そのようになれば本当にいいなと思っておりますので、そのように進めていただくよう期待いたします。

そして今現在、新温泉町出身の力士が3名いらっしゃいます。その力士さんたちへの引き続きの応援、何か具体的なものがありましたら教えていただきたいというか、考えているようなことがありますでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この春にも大阪場所でしょうか、応援に行かせていただきました。地域で応援できることはやっていきたいと思っております。今回も昨日、おとこの浜中相撲部全国大会の新聞記事が載っておりました。将来彼らも相撲界に入って活躍されるという具合に考えておりますし、町が、やはり相撲の町として何らかの支援策を検討してもいいなと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ありがとうございます。そのように期待いたします。大変な努力をされている、この力士たちへの応援を地域挙げてできればと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、次の宅地整備に向けた対応についてを尋ねさせていただきます。町内にとどまっていたためと、移住定住を進めるための宅地整備をするべきと考えていますが、そのような対策はありますか。できれば小学校の近くで宅地を増やす、現在ある小学校の近くで宅地を増やす。若い方たちの住宅に補助をとというのも期待していますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 極めて住宅政策と地域に残っていただくというのは重要であると思っております。結婚して親と別居するという方も増えておるようでありますので、そういった意味では、この宅地整備、住宅の在り方を充実が必要だと、先ほども移住定住のところでも意見があったんですけど、宅地政策、これは大切な政策だと考えております。

近年、民間事業者による分譲宅地の開発が多く見られるようになりました。こういった分譲住宅の購入者、購入希望者の内訳について、その全容を把握しているわけではありませんが、町内外の実家、または賃貸住宅からの移住定住を目的とした方々が多く含まれている旨、一部の事業者、購入者などから情報を得ております。経済的には、若者、子育て世代が購入に踏み切ることが容易とは言い難い面がありますが、民間活力による移住定住が図られている現状があることから、移住定住を進めるための宅地整備を町で実施する段階にはないと考えております。そのような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） できれば小学校の近くで宅地をというふうなことも先ほど尋ねさせていただきました。というのが、後での質問になるのですが、空き家が多い現状です、どの町でも。当町でも空き家はたくさんあると思います。そういったような空き家を、ちょっと順番変わって申し訳ないのですが、危険家屋などを更地にして宅地にする、それにはいろんな問題があって難しいと思うんですが、業者に任せるだけでは解決しにくいほどの難しい問題が各家々あって、空き家として放置されているところも多いと伺っております。そういったようなところを行政がちょっと相談に乗り、空き地を住宅可能な更地にするなり、そのまま空き家を生かした空き家バンクというか、そういったような、住んで、ちょっとでも地域の中に人口を増やせるように、そういったような努力をしていただきたいと思います。いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、不動産を取り扱っている方々の中にも、空き家を紹介されて、実際に成果を上げている方もいるようであります。主に町の空き家登録を、ホームページに登録されている空き家を推進をしていただいております。ただ、八田の地区であるとか、どちらかというところから離れた集落が大半であります。昨年、今年にかけて3件、4件ほど実績は聞いております。空き家の活用、小学校の近くというふうなこともあるわけですけど、そういった民間の方々に力を出していただいて、住宅政策をやっていったほうが良いと考えております。

実は、町営住宅も約100か所、町営住宅があるわけですけど、現在、応募をいたしましても、募集が満たすことはなかなか難しい、そういう現状があります。そういった意味でも、町で住宅をこれ以上増やすということは現状では難しいと考えておりますし、あくまでも民間の力をお借りしたい、そういう思いでやっていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 町営住宅が埋まらないということなのですが、やはり町営住宅は、ちょっと現在この町にあるのは古いものが多いです。新しいものには、また違った価値があったりとか、そういったような付加価値をつける、そういったような方向で進んでいただけると、また若い人たちにも違う形で映る、若い人たちもこの町に住む考えの一助になるのではないかというふうに考えていますので、ぜひ、そのように前向きに考えるべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 考えたいですけど、考えられません。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 難しいと思いますが、私は、この町は、先ほどもありましたが、とても環境のいい、また、浜坂道路ができれば、本当に鳥取－豊岡間の真ん中で、30分以内で両方に行けるといって、都市部にもとても近くなりますし、ベッドタウンには最適の場所だと思っております。そういったような意味でも、宅地、住宅等を早いうちから先手を打って整備するべきと考え、この提案をさせていただいております。ぜひ、そのように思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、この浜坂の市街地を見ても、住宅地として売り出しているところがあっても埋まってないところはかなりあります。民間のやはり活力が一番大事だと思います。そういった面で、町が宅地の開発に手を出すということは、民間の妨害にもなると、妨げにもなると考えます。あくまでも民間を支援できるような形がないかを考えるのはいいと思うんですけど、町が率先してするというのはちょっと難しいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 民間の妨げになるかもしれないのですが、土地については町が準備できたとしても、建物まではできませんので、そちらのほうで民間も喜ばれるのではないかというふうに思ったりもしますが、そのようなお答えでしたら、それでこれから考えていっていただければと思います。

それでは、次に、子育て支援・こども園整備・幼小中高連携についてお尋ねいたします。

充実しつつある子育て支援もありますが、地域の保護者の方も大変喜んでくださっています。ですが、やはり暮らしを考えたときに、雨、雪、猛暑などのときにも遊べる場所が少なく、強く求められています。先日の企画課の、先ほども同僚議員が言っておられました、汽車に乗ってみようの企画も大変地域の方たちにも喜ばれ、20人ほどで参加したのですが、城崎まで本当に楽しい旅、いい経験を親子でさせていただきました。お父さんたちも参加し、城崎を歩くってことはめったにないんですが、そのような

経験もさせていただきましたし、汽車のよさを改めて感じさせていただいて、そういったようなときにもそのようなことが出ました。やはり暮らしの中で親子で楽しめる時があまりないというか、難しい地域で、体験することが難しい。こういったような汽車に乗って遊ぼう、またバスも経験したいねというような御意見もいただきましたので、次々にいろんな企画を考えてくださることを期待しています。

それもですが、やはりそのときも出ました。雪、雨、猛暑のときに遊ぶ場所がない。先ほども同僚議員が言っておられましたけど、豊岡市は駅前の商業施設内に子育て総合センターとこども広場、会議室、フリースペースがつくられ、利用者も増えています。こども広場は、豊岡は人気がありますし、植村直己記念館のどんぐりルームというか、そういったような、本当にいろんな遊びができる、ボルダリングや山登り、ネットを使った山登りとか、私が行かせていただいたときは、もう行列ができるほどの大人気でした。そういったような、以前からこれは希望していますので、検討するということでした。進捗状況をお知らせください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 進捗状況ということですが、進捗を図っているわけではありません。そこは御理解をいただきたいと思いますが、屋内遊技場、午前中の質問にもあったんですけど、今ある既存の施設でできないか、そういう利用方法ができないか、これは検討する余地があると思っておりますので、そういった検討をしてみたいと思います。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 新しい大きな設備を造ってほしいと言っているわけでは今の段階ではないです。昨日も同僚議員が言ってきましたように、駅前の活性化として空き店舗を使い、そういったような施設、広場的なスペース、学習スペース、学生が気軽に寄れる居場所づくりも求められています。そういったような、今あるものを工夫していただけたら、ボルダリングのスペースなり、いろんなおもちゃ、親子で遊べるおもちゃなりは、そういったようなところにあるだけでもお母さんたちは気が休まります。そういったようなコミュニケーションの場を増やしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 検討をいたします。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 前向きに検討してください。そういったようなところに男女共同参画センターのような情報発信、悩み相談的な場所も併せて考えていただければ、駅前の活性化、有効活用等になると思いますし、旧温泉高校を利用して、遊具のある公園、心、頭、体の3つの遊びをバランスよく体験できる施設等も造れると思うんですが、いかがお考えでしょうか。また、旧温泉高校でのドッグランとか、そういったよ

うなものも併せて活用できるようになれば喜ばれると思うのですが、いかがお考えですか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 旧温泉高校の活用については、商工観光課が所管であります。現在、雇用の場として、利用者はないか、検討段階であります。子供のそういう施設として、現状でアイデアとしてはいいわけですけど、活用をすることはちょっと難しいかな。それから、雨漏り、老朽化がしておりますので、危険対策であるとか、そういった面も心配な面もありますので、そういう議員御指摘の利用方法はちょっと難しいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 子供たちの遊ぶ場所を少しでも増やしていただき、地域に優しい、暮らしやすい町を目指していけたらと思いますが、そのほかに具体的な提案というか、具体的に利用できそうな、先ほど白馬公園とありましたが、そういったようなところを、遊具を増やしていけるような可能性はありますでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 場所としてはあると思っておりますし、現在、既に遊具も、簡単な遊具はあるわけです。この牧場公園にあるような3,000万円近くするような、そういう遊具の設置という点においては、もう少し検討する必要があると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） それでは、次に、町民の声を生かした柔軟なこども園整備に向けた対応についてお伺いいたします。

こども園は、先日の臨時議会で耐震診断をした上での改築というふうに計画が変更になりました。その耐震診断の結果を基に、あと20年程度の補強工事の設計ということになりましたので、まだ今の段階で決定のところは少ないかもしれませんが、既に、大きな変更でしたので、戸惑いやら、いろいろな声が町民からたくさん届いています。当局が提案を考える際に、町民の思いを込めていただくほうがいいのではと思い、少し気が早いかもしれませんが、数点届いている声を提案させていただきます。

当局の臨時会での提案の仮園舎についてです。まず、当然のことではありますが、子供たちを一番に考えていただきたいと強く思います。そうした上で考えますと、環境の大きな変化は、子供たちにとって、とても負担の大きいことでもあります。できれば現在地の近くで仮園舎を建てるというふうな提案はできないのでしょうか。仮園舎は今の予定では数年で壊すということです。それはやはりもったいないというか、忍びないです。先ほど子供たちの遊ぶ場所をつくるのは難しいと言っておられました。町長は以前より、現浜坂認定こども園の近くをいろいろな子育てゾーンとして活用したいというふうに言っておられました。私もそれを提案をしてまいりました。そういったような子育てゾーンとして、前もって埋め立てし、いろいろな施設ができるような環境を整え、仮園

舎として造り、その仮園舎の役目を終えた後にもいろんな設備として、先ほど言ったような子供たちの遊べる場所、子育て支援センター、近所の方たちが集まる場所、2階も造ったとしたら、そういったところが災害時の避難場所になるようなものを思い切って今造ってしまったほうが、二、三年で数億円使うよりはいいのではないかというような意見も聞いております。また、やはりそんなに手間も時間もかかり、お金もかかるのであれば、新築とあまり変わらないのではというような意見も伺っております。そのような提案ですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまでの現在地の生かし方の中で、いろいろ関係課と相談した結果、仮園舎については、すこやか広場がいいな、そういう結論に至っております。そういう方向でお願いをしたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） やはりあそこは危険な場所ですし、できれば仮園舎は違う場所がいいのではというふうに感じています。子供のことをまず第一に考えていただきたい、そのように思っております。

次の、一人一人に対応した支援策の考えはあるのかに移らせていただきます。それぞれの学校で特色ある、きめ細やかな、子供に寄り添った学校が多いと聞いております。そのようないいところ、ふるさと教育を一生懸命している、子供たちが生き生きしているといったような、そのようないいところをアピールできないのか。また、人数が少なく経験が少ないというようなところは、学校間の交流事業というものはできないのか。そういったようなことは可能でしょうか、お尋ねいたします。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町では、子育て段階に合わせ、様々な支援制度を設けております。生まれるまでは特定不妊治療費の助成、それから妊婦の健診助成、それから妊婦の歯科健診助成、それから、生まれた場合の出産祝い品、そして、その後の紙おむつの購入費の助成、さらには児童手当、特別児童手当、乳幼児医療費の助成、高校生までの医療費の無料化、子育て支援センターでの子育て、放課後児童クラブ、適応指導教室、子ども相談室、特別支援教育就学奨励金、要保護・準要保護児童生徒援助費、母子家庭医療費助成事業、児童扶養手当など、生まれる前から児童が大きくなるまで様々な支援を行っております。こういった支援制度の中で、一人一人に対応した支援策を所管課で行っていただいております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） とてもたくさんすばらしい事業をしていただき、本当に感謝しております。地域のお母さんたち、御家族の方も喜んでおられます。そういったような声はよくよく伺っておりますし、提案も本当に聞いてくださって感謝しております。

そういったようなところはありがたいと言っておりますが、やはり日々の暮らし、経済的なことだけではなく、日々の暮らしっていうものが大切です。そうなってきたときに、子供たち、学校、もちろん学校、大切です。今の学校、子供たち、大変喜んでおります。地域の方も喜んでおられます。そういったようなことをもっともっとアピールできないか。その環境のよさ、子供たちの笑顔をPRに出来ないのか。そういった子供たち、小学校は高校や大学のように進路とかを進路先とかでPRできないので難しいとは思いますが、今喜ばれている、今の現在の地域の方たちは喜んでいて、そういったことをもっと具体的にアピールすることも大切なのではないかと思います、「少なくとも」のマイナスばかりを言うのではなく、今、海や山でいろんな体験ができる、地域の人たちがいろんなボランティアをしてくれる、私も毎週小学校に朝寄らせていただいておりますが、本当に子供たち楽しそうで、生き生きと子供らしい笑顔をいつも見させていただき、感謝しています。そういった地域の根深いというか、地域の方たちの長いボランティアっていうものを大切にしたい、そういったような教育、日々の暮らしというようなものも大切だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この児童、子供たち一人一人に対応した支援策を充実するべく、保護者の働き方や地域ニーズに応じた保育の提供を図るため、認定こども園の充実、また、親子同士の交流、そして相談の場、放課後児童クラブの充実など、保護者の就労の有無にかかわらず、全ての子供が教育、そして保育が受けることができるよう環境をきっちりと整えていきたい、そういうスタンスで推進を図っていきたくて考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ありがとうございます。本当にそれは感じております。この町のよさの一つと自慢したいぐらいに思っております。そういったようないいところをもっとどんどんアピールして、この町の人口増加に向けた一つになればと本当、切に願っております。子育て環境がこんなにたくさんそろっている町、全国でもそんなはないのではないかと自負しております。そういったような環境を生かした子育て環境の充実、大分していただいております。親御さんも喜んでおられます。ですが、やはりまだ足りないところがあったりします。そういったようなところも加え、ですが、本当に以前と比べてよくなったっていうのは伺っております。これからも一人一人に対応した支援というものを考えてくださるというふうな思いを今ひしひしと感じておりますので、またこれからも継続して、この町、子供に優しい、大人にも優しい、地域の方たちにも優しい町づくりを目指して頑張っていただければと願っておりますし、そのような思いをお持ちではないかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおりでありますし、そのような対応が一人一人にきっちりできる体制をやりたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 先ほど議員のほうから、日頃の子供たちの体験活動とか、いろんなところで輝いてる姿を、喜んではる姿をアピールするというか、そういったこともあったかと思うんですけども、今、いろんな地域の中で子供たちが学んでいる様子等を各学校にもお願いをして、新聞等で地域の皆様に知っていただくこととか、ケーブルテレビで、ある学校なんかは、定期的に来ていただいて、子供たちの日々の様子を町民の皆様に知っていただく、また、ホームページを活用してのアピールとか、いろんなことで、学校の中では日頃の子供たちの様子については、やっぱり地域の皆様との活動の中で得るものがたくさんありますし、そういったことをアピールするようにはしております。やっぱり子供たち一人一人に寄り添っていく教育っていうことはとっても大事だと思っておりますし、誰一人取り残さないということで大切にしている教育でもありますので、先ほどから出ておりますふるさと教育のことを軸にもしながら、いろいろな教育、特別支援教育にしてもそうですし、いろいろな教育に広がりを持たせながら、一人一人を大事にしていきたい、そんな教育をしたいと思っております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） とてもありがたいお言葉です。そのように努力していただければと思います。

また、小中高連携による前向きな活動もお伺いしております。特に中学生、また、初めて子供が高校を受検するといった場合は、どうしても高校の現状はなかなか伝わりにくいのだなというのを感じております。どうしてもイメージやうわさで進路を決めてしまっている子供もいるのではないかなというのを感じます。そういった中学生が現状を知るには、高校生からの話が直接聞けるような、そのような機会をつくってはどうか、また、可能であれば中学生と高校生と一緒に部活動をするなど、また学校の訪問、今もあるんですが、どうしても限られているので、もっとたくさんそういったような本当に高校生を肌で感じられるぐらいの経験が中学生にあれば、選ぶときの基準にもなると思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 進路について、中学生の子供たちにいろいろ考える材料というようなことですが、今現在、浜坂高校との連携を進めております。その中で、やはり浜坂高校が選んでいただける高校になるために、いろいろな手だてをしているんですけども、今議員がおっしゃったように、高校生から中学生が高校生活についての話を聞くっていう場は、今年度、中高の交流事業をしていただきました。両中学校でしていただいたんですけども、パワーポイントで高校生が自分たちの高校生活をこんないいところがあるというようなことでアピールをして、実際に高校生活のよさ、部活動のことであったり、委員会活動だったり、生徒会だったり、授業のことであったり、いろいろ高校生目線でまとめて発表していただきました。その交流で中学生が先輩から話を聞け

たということが本当によかったというようなことで、後で取ったアンケートにも、本当にこの機会がとっても、先生から聞くのではなくって先輩から話が聞けたことがすごくよかったというような、アンケートにも書いておりました。ですので、そういった中学生と高校生との交流、それから先生方との交流、そういった事業を今現在もしております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのように大変いいメリットがあったということでしたら、ますます増やしていただければと思います。また、保護者や学校への支援というものの、今でもあるんですが、増やしていただければとも思います。

といいますのが、参考ですが、ある高校の、4,000人余りのある町での唯一の高校に、商業高校なんですけど、町が行っている支援制度を紹介させていただきます。入学奨励金支給、この町は10万円、1人につき出しておられます。各種検定料助成、商業高校ですので、いろんな検定を受検したときに、その検定料を補助しています。ふるさと留学支援金や下宿代の支給ということで、月額2万円とか、下宿の場合は7万円、冬は8万円支給されています。ノートパソコンを無償貸与しております。全国一斉に令和4年度から高校入学時にICT端末を購入しなければなりません。ノートパソコンを3年間無償貸与し、卒業時には贈与する予定です。部活動等の大会競技参加費の補助ということで、これも県大会以上は全額負担。通学生徒に対する交通費の支給もバスの定期代を全額補助しています。ここの高校は今年度から給食を全校生に無料で提供しているということです。ここは全国募集に向けて、今とても1学年少ないんですが、それでも全国生徒募集に向けて、新たに5年度から利用してもらえよう寮を町が造っています。そういったような町もございまして、地域の高校に対する支援というものは、いろんな形であるのだなと改めて感じたところでもありますので、可能な支援がありましたら続けていただければと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。（「聞いてないか」と呼ぶ者あり）教育長にする。
西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、ある高校の支援制度について御紹介をいただきました。これにつきましては、浜坂高校の在り方ってというようなことを考えていく中で、できることとできないこと、支援策もいろいろあると思います。これは今ここでお答えはできないと思っておりますが、本当に町内唯一の高校をやはりみんなに残していく、本当に存続していくということに向けて、いろいろ皆さんと知恵を絞っていききたいなというふうに考えています。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そういったような中から子供たちは感謝しながら育っているというようなことも書いてありましたので、部活動も積極的に行うようになった、地域とのつながりを大切にしているというような学校ですので、全てというわけではな

いんですが、こういうようなことも取り組んでいる町があるということで参考にさせていただき、これからの地域の子供たちをますます見守っていける環境になればと願っております。

また、子育ての問題については、相談等も多岐にわたり、増えています。こども家庭庁にもなってきますので、既にされているのも承知していますが、なお一層県のこども家庭センターなどとも連携を深めていただきながら、子育ての対応を考えていければと思います。いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 子供たち一人一人の幸せを考えていくということで、いろんなやっぱり関係機関との連携ということは欠かせないことだと思っています。いろんな多様な子供たちがいる中で、多様な教育も求められていますので、いろいろな関係機関とも連携を取りながら、いろいろ事業等、子供たちが幸せを感じられるようにつくっていきたいと思っています。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのように期待します。

そして、また同じようなあれになります。小学校も中学校も高校も入ってみたいと現状っていうのは分からないっていうのは当たり前のことです。ですが、やはりちょっとでも前もって知っていたら安心なのになというような声を、小学校の場合でもいろんなうわさがありますので、小学生の入学前でもそのような不安があったというような声をお聞きしました。入ってみたら、本当にそんな心配することもなかったし、この学校でよかったというふうな声を聞いております。できれば小学校の入学前にちょっとでも親子が体験できる、小学校ってどんなところだろうっていうようなのが分かるような機会をつくっていただければ、また一つ小学校を知っていただけるきっかけになり、地域とのつながりも増えてくると思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 小学校入学前にいろんな体験を、今現在も給食体験だとか、それから5年生と5歳児の体験とかいうことも実際にやっております。ある学校なんかは、5：5交流っていうんですけれども、運動会の中での交流がメインであったんですけども、それだけではなかなか触れ合う機会が少ないということで、夏休みにプールの活動を一緒にするとか、いろいろ学校で工夫をして体験できる場を設けております。本当に入るまでに不安をお持ちの保護者の方、また、お子さんが不安なく入学していただけるような手だてということは必要だと思っていますので、大人同士の、教員同士の連携はしっかりと今もしておりますけれども、それとは別個で、やはり子供たちが安心して入学できるような、保護者の方に安心していただけるような体験できるような場というのは、また考えていく必要があると思っています。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ぜひ、そのようにお願いいたします。

それでは、次の災害時の家屋、塀などの状況把握についてお伺いいたします。

空き家の現状と危険家屋の把握はどのようにされていますでしょうか。また分かれば教えていただきたいです。

○議長（宮本 泰男君） ここで、お諮りいたします。定刻の5時が近づいてまいりました。延刻して会議を続行したいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮本 泰男君） 異議ありと、1名かな、異議ありの方、1名ですか。ありませんね。1名と認めます。1名でありますので、異議なしと認めます。

○議員（13番 中井 勝君） ちょっと待って、そんな諮り方があるんかい。

○議長（宮本 泰男君） あります。

○議員（13番 中井 勝君） そんな諮り方ないよ、議長。採決せんかいな。

だって、ルールどおりやろう。

○議長（宮本 泰男君） 失礼いたしました。議会会議規則第9条第2項の規定により、延刻して会議を続行いたします。

○議員（13番 中井 勝君） そんなん聞いたことねえで。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩します。

午後4時57分休憩

午後4時58分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じます。

先ほど異議ありの方、1名ありました。1名でありますので、先ほど言いましたとおり、議会会議規則第9条第2項の規定により、延刻して会議を続行いたします。

7番、浜田直子君。

続けてください。

○議員（7番 浜田 直子君） 空き家の現状と危険家屋の把握はどうされていますか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、空き家特措法が制定されたことにより、平成29年度に新温泉町空き家等対策計画を策定いたしました。計画策定に先立ち、平成27年度各町内会の協力の下、空き家に関する実態調査を実施しました。その結果、町内に空き家と見られる建物は369件存在することが把握できました。また、空き家の情報については、近隣住民や所有者、相続人等からの相談で判明する場合もあり、令和4年8月22日現在で361件の空き家が存在しています。危険空き家については、現地調査の結果、125件の存在が確認されており、倒れる、倒壊等の危険があり、放置することが不適切であると判断し、特定危険空き家として指定している建物が24件となっております。特定危険空き家、24件となっております。所有者、そして相続人への指導により、除却

できた特定危険空き家は24件中11件除去できております。残り13件については、相続人調査を随時行い、相続人が判明した建物の除去、適正な管理の指導を現在行っております。そのような状況です。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 大変な作業を本当にお疲れさまです。引き続き、地域の方たちも心配されている地域もありますので、大変だと思いますけど、頑張っていたきたいです。

また、塀についても、道路沿い以外にも危険な塀があると思うんですが、そのようなものは把握できてますでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 塀については膨大な数があるため、町としての把握は困難な状況であります。塀の管理は所有者の責任で、状況の把握も所有者が行う必要があると考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ですが、危険なものであったり、空き家になっている塀については、所有者がそのようなものに、塀まで手が回らないというか、危険であってもどうしていいのかわからないというか、対策取ってくれないような塀の持ち主もあると思うんですが、そういった場合はどのような対策があるんでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町に何件か直接、どうしようもなく相談に来る方もあるわけです。現地取材したり、いろんな状況を聞く中で、できるだけ町で対応できるところは協力させていただいております。ただ、所有者が分からないとか、どうしても所有者が分かっても交渉ができないとか、課題があってそのままになってるところもあるというのが現状ですが、極力、担当課職員が出向いて、話を聞いていただいておりますというのが実態であります。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのように町が寄り添っていただけるっていうだけでも大変ありがたいと思いますので、そのような声が届いた場合には、積極的にというか、なるべく塀についても、やはりいつどうなるかわからないというような不安の中で過ごしておられる方が多いですので、そのような対応を引き続きお願いいたします。

それでは、続きまして、鳥獣害対策についてお伺いいたします。

鳥獣害施設の利用率を上げるために、施設の稼働力を高める考えはありますでしょうか。特に日曜、祭日の受入れの希望が多いです。そういったようなことに対する対策をお聞かせください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この塩山地域にできました鳥獣処理施設は、令和元年10月よ

り稼働をいたしました。当初は、土、日、祝祭日と年末年始を除いて平日のみ稼働いたしておりました。その後、稼働日を拡充し、令和2年11月26日から土曜日の受入れも開始し、現在に至っております。

令和3年度の利用実績として、鹿の場合、全町で捕獲者の73.9%となっており、7割以上の方の利用がありますが、施設へ持ち込まない実態としては、ジビエとして利活用されている捕獲員や、腐食、腐ったという、そういう状況によって持ち込んでいないケースもあります。

また、現在の有害鳥獣捕獲班の捕獲員は95名おり、実際に活動実績があるのは、そのうちの約6割程度にとどまっており、中でも土日に活動が限定されるサラリーマンの方は、狩猟免許は取ったものの、捕獲後の処理先の問題から、活動に支障が出るケースがあるという状況であります。現在、一部捕獲員の方から日曜日の受入れを希望する声も聞いております。そういった中、日曜日の受入れ拡充について調整をいたしており、現在地域の関係者の方々、役員の方々、それから特に鳥獣処理施設監視委員会を通じてお話をさせていただいている、このような状況であります。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 大変なことだと思いますけど、農作物もですが、希少植物も、ミツガシワなど、いろんなものも鹿の被害が多く、大変危惧しております。

そのような中でも、結局日曜、祭日という受入れは、前向きに検討していただけるのでしょうか。また、鳥獣処理施設の利用率を上げるためには、日曜日、祭日の受入れ以外に、何か対策、当町は補助が少ないとお伺いしておりますので、そういったようなところもお聞かせください。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当初、立ち上げる段階で、地域との約束の中で、祝祭日、土日は利用しないということで来ておまして、その中で特別、土曜日を交渉する中で、現在に至っております。日曜日につきましては、現在、監視委員会の方々を通して、地域と調整をいたしておるということでもあります。それから、持ち込みした場合、さらに1,000円の手数料をお支払いをいたしております。そういう状況です。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君、残り時間少なくなりましたので、整理して質問してください。

○議員（7番 浜田 直子君） 日曜、祭日の受入れというのは、加工までを望むのではなく、冷蔵庫に入れさせていただきたいという希望を聞いております。冷蔵庫だけをどこかかそこで開けていただければ、また次の行動にも移れるのですが、こういったような獣に土日、祭日はないというか、ありませんし、先ほども言ったように、働いておられる方は土日に動かれることが多いですので、そういったような、冷蔵庫だけでも開けさせていただければというような声もありますので、前向きに対策していただければと、地元の方との交渉もあるのは分かりますが、冷蔵庫だけでも開けていただけたら次の行

動に移せるということですので、そういったようなこともお考えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（宮本 泰男君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当初の約束がありますので、そういった点、きっちりと話合いの中で進めていきたいと考えております。

○議長（宮本 泰男君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） この処理施設もですが、それ以外にも向けての鳥獣害の対策というのは本当に大きなこの町のテーマですので、いろいろ取り組んでいただければと思います。

以上をもって質問を終わらせていただきます。

○議長（宮本 泰男君） これで7番、浜田直子君の質問を終わります。

○議長（宮本 泰男君） 暫時休憩いたします。

午後5時10分休憩

午後5時10分再開

○議長（宮本 泰男君） 休憩を閉じます。

本日はこれで延会いたします。

次は、9月6日午前9時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。
長時間お疲れさまでした。

午後5時10分延会
